

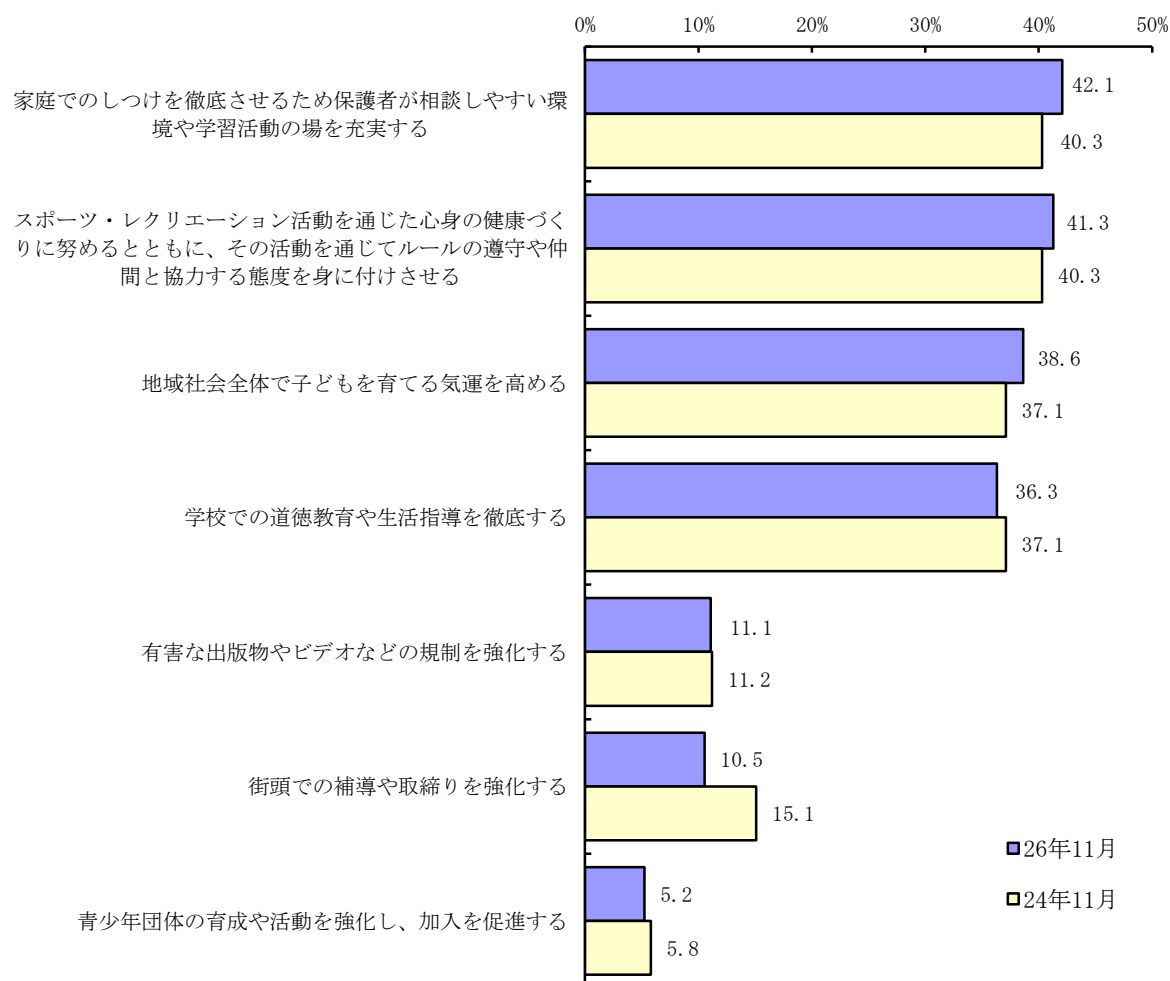
問17 青少年対策

あなたは、青少年を健全に育成するためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 学校での道徳教育や生活指導を徹底する	36.3	36.3
2 家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する	42.1	42.1
3 地域社会全体で子どもを育てる気運を高める	38.6	38.6
4 有害な出版物やビデオなどの規制を強化する	11.1	11.1
5 青少年団体の育成や活動を強化し、加入を促進する	5.2	5.2
6 街頭での補導や取締りを強化する	10.5	10.5
7 スポーツ・レクリエーション活動を通じた心身の健康づくりに努めるとともに、その活動を通じてルールの遵守や仲間と協力する態度を身に付けさせる	41.3	41.3
8 その他	1.6	1.6
9 わからない	3.5	3.5

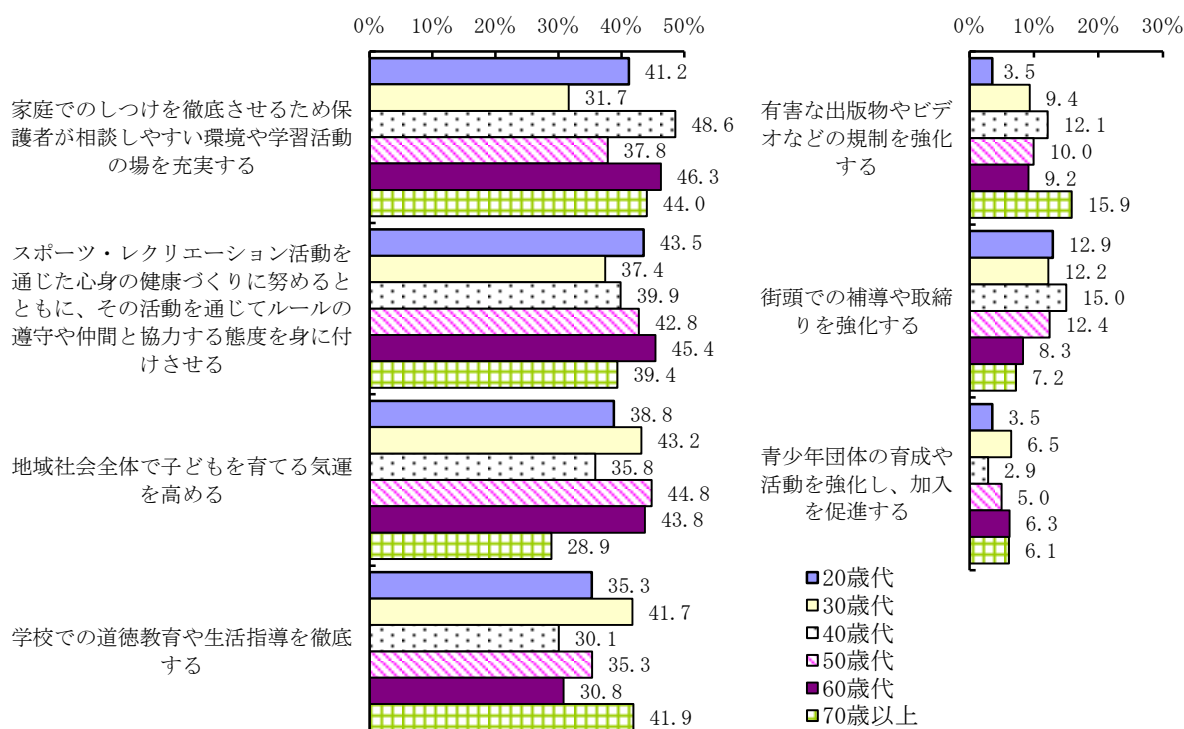
青少年を健全に育成するためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する」と答えた人の割合が42.1%と最も多く、以下「スポーツ・レクリエーション活動を通じた心身の健康づくりに努めるとともに、その活動を通じてルールの遵守や仲間と協力する態度を身に付けさせる」(41.3%)、「地域社会全体で子どもを育てる気運を高める」(38.6%)、「学校での道徳教育や生活指導を徹底する」(36.3%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「街頭での補導や取締りを強化する」と答えた人の割合が4.6ポイントと減少している。



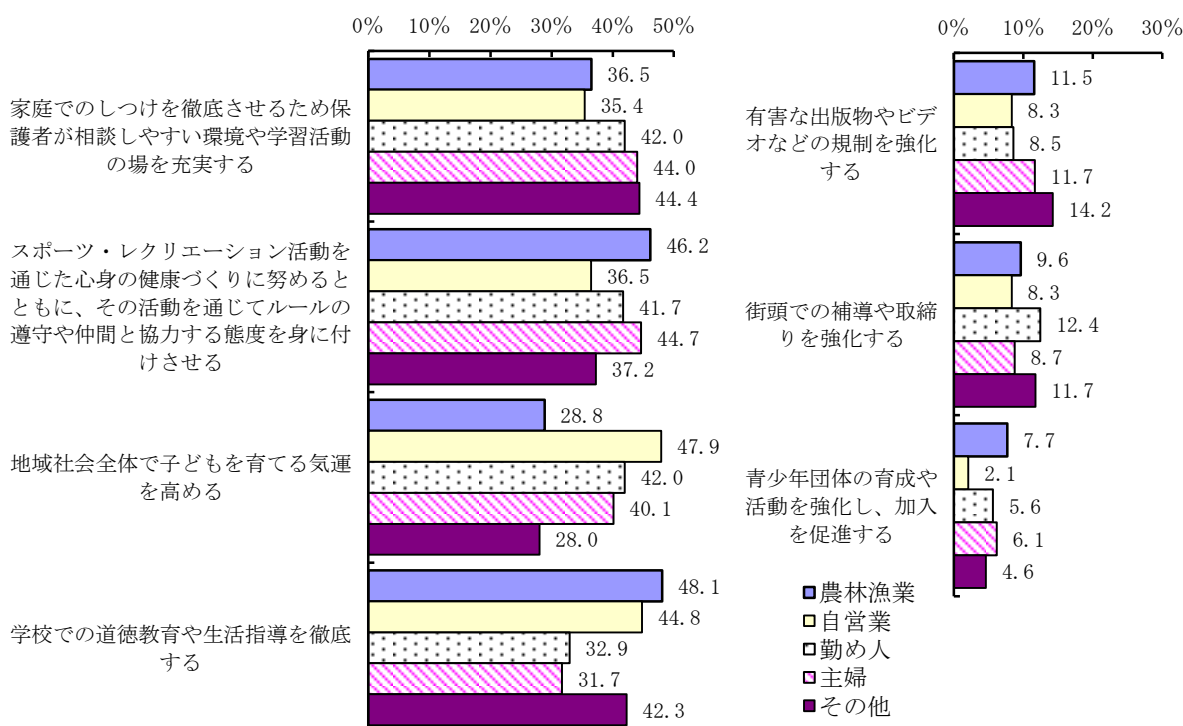
【年齢別】

年齢別にみると、40歳代及び60歳代以上では「家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する」と答えた人の割合が最も多く、20歳代では「スポーツ・レクリエーション活動を通じた心身の健康づくりに努めるとともに、その活動を通じてルールへの遵守や仲間と協力する態度を身に付けさせる」が最も多く、30歳代及び50歳代では「地域社会全体で子どもを育てる気運を高める」が最も多い。



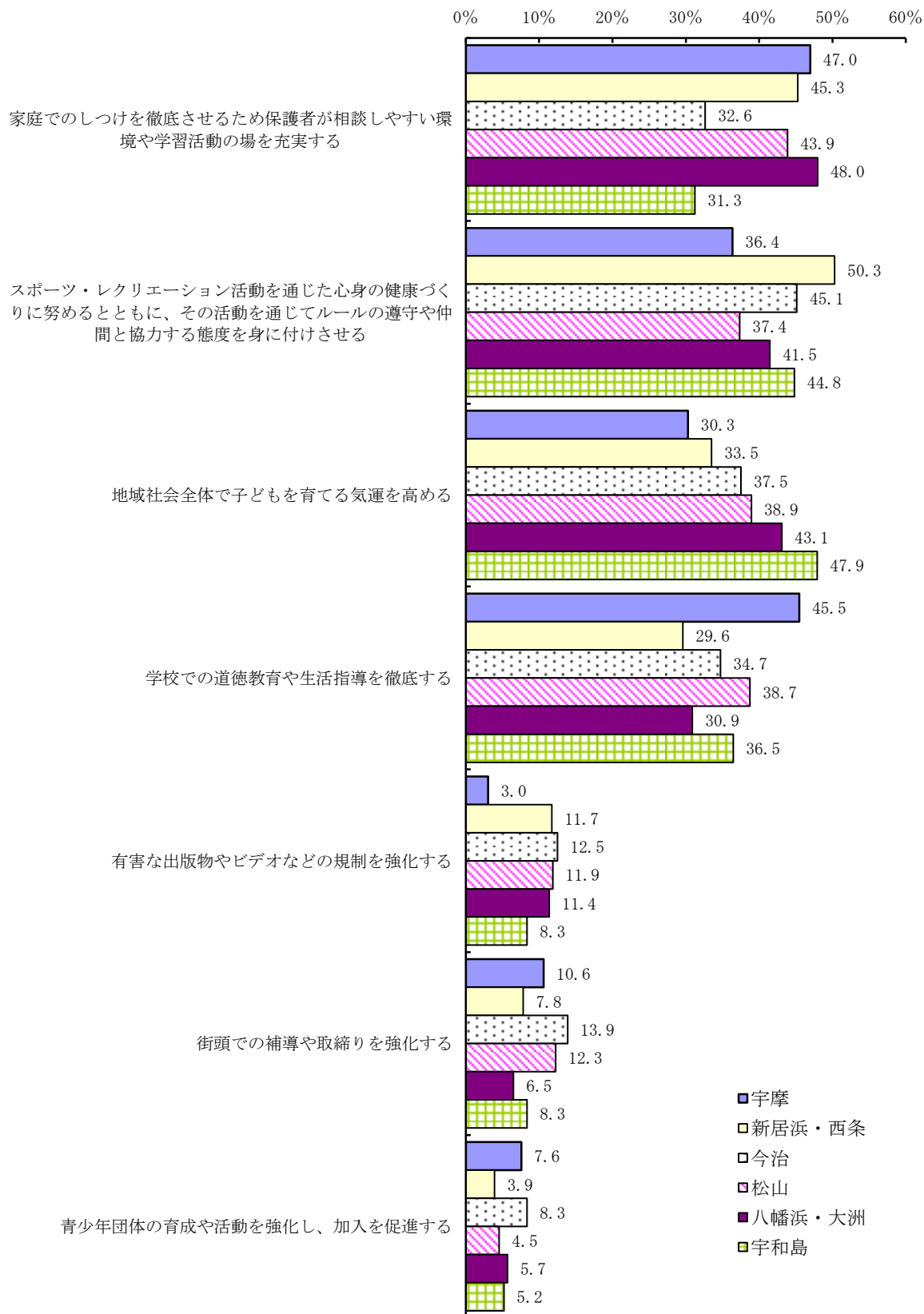
【職業別】

職業別にみると、勤め人及びその他では「家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する」と答えた人の割合が最も多いが、勤め人では「地域社会全体で子どもを育てる気運を高める」も同率で最も多い。主婦では「スポーツ・レクリエーション活動を通じた心身の健康づくりに努めるとともに、その活動を通じてルールへの遵守や仲間と協力する態度を身に付けさせる」が最も多く、自営業では「地域社会全体で子どもを育てる気運を高める」が最も多く、農林漁業では「学校での道徳教育や生活指導を徹底する」が最も多い。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域、松山圏域及び八幡浜・大洲圏域では「家庭でのしつけを徹底させるため保護者が相談しやすい環境や学習活動の場を充実する」と答えた人の割合が最も多く、新居浜・西条圏域及び今治圏域では「スポーツ・レクリエーション活動を通じた心身の健康づくりに努めるとともに、その活動を通じてルールへの遵守や仲間と協力する態度を身に付けさせる」が最も多く、宇和島圏域では「地域社会全体で子どもを育てる気運を高める」が最も多い。



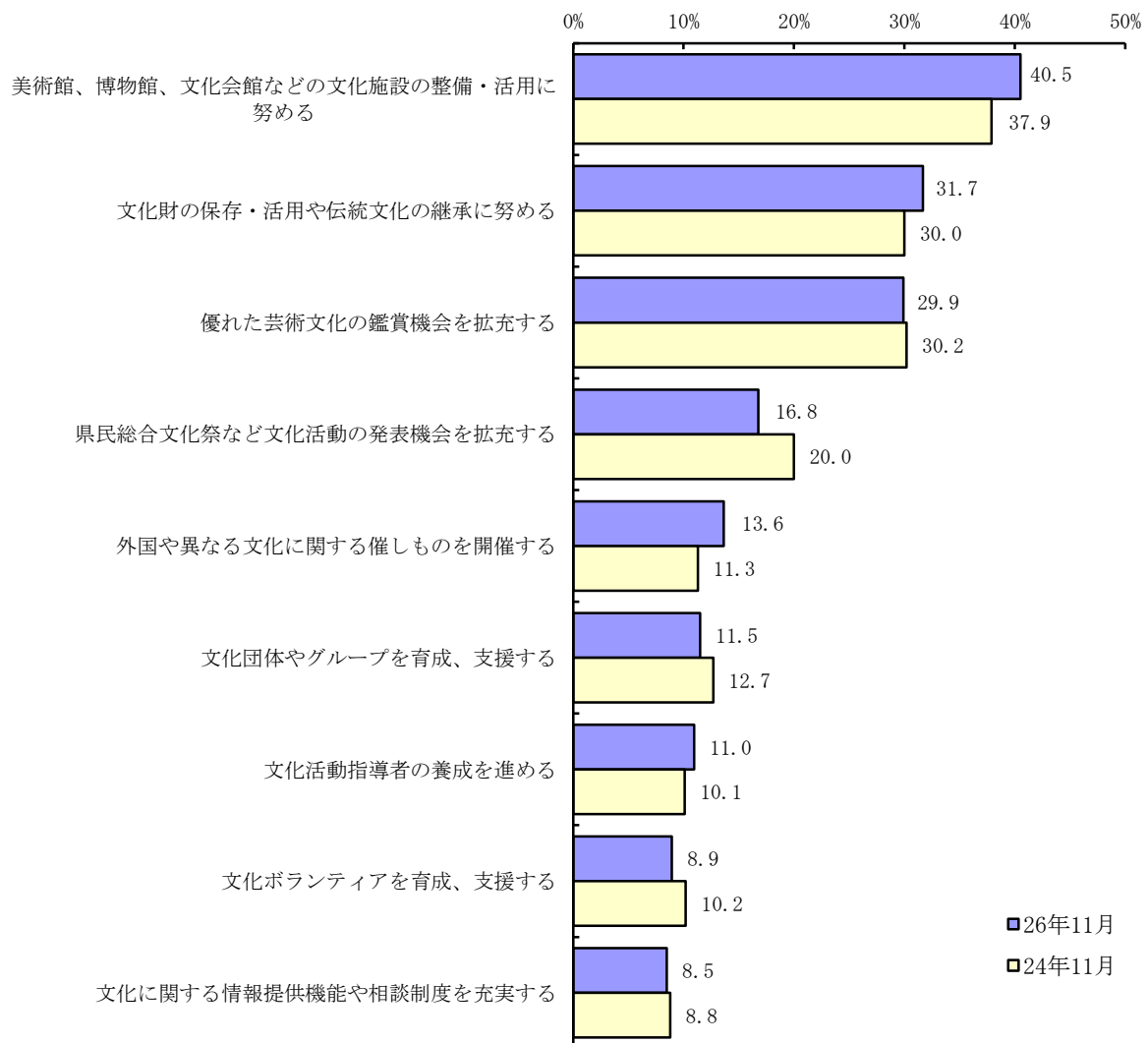
問18 文化振興対策

あなたは、県民の文化活動を促進するためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 美術館、博物館、文化会館などの文化施設の整備・活用に努める	40.5	40.5
2 県民総合文化祭など文化活動の発表機会を拡充する	16.8	16.8
3 優れた芸術文化の鑑賞機会を拡充する	29.9	29.9
4 文化団体やグループを育成、支援する	11.5	11.5
5 文化ボランティアを育成、支援する	8.9	8.9
6 文化活動指導者の養成を進める	11.0	11.0
7 文化に関する情報提供機能や相談制度を充実する	8.5	8.5
8 文化財の保存・活用や伝統文化の継承に努める	31.7	31.7
9 外国や異なる文化に関する催しものを開催する	13.6	13.6
10 その他	1.2	1.2
11 わからない	9.6	9.6

県民の文化活動を促進するためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「美術館、博物館、文化会館などの文化施設の整備・活用に努める」と答えた人の割合が40.5%で最も多く、以下「文化財の保存・活用や伝統文化の継承に努める」(31.7%)、「優れた芸術文化の鑑賞機会を拡充する」(29.9%)、「県民総合文化祭など文化活動の発表機会を拡充する」(16.8%)などの順となっている。

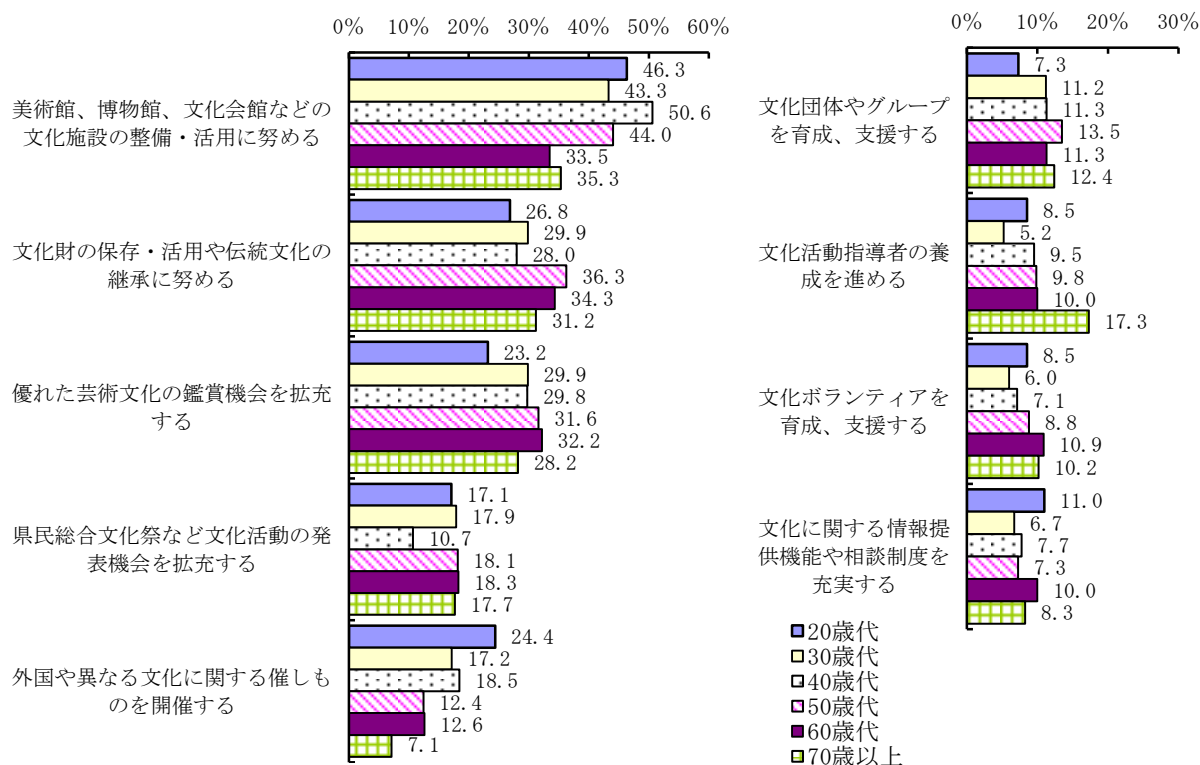
前回調査と比較すると、「県民総合文化祭など文化活動の発表機会を拡充する」と答えた人の割合が3.2ポイント減少している。



【年齢別】

年齢別にみると、60歳代を除く全ての年齢層で「美術館、博物館、文化会館などの文化施設の整備・活用に努める」と答えた人の割合が最も多く、40歳代で多くなっている。60歳代では「文化財の保存・活用や伝統文化の継承に努める」が最も多い。

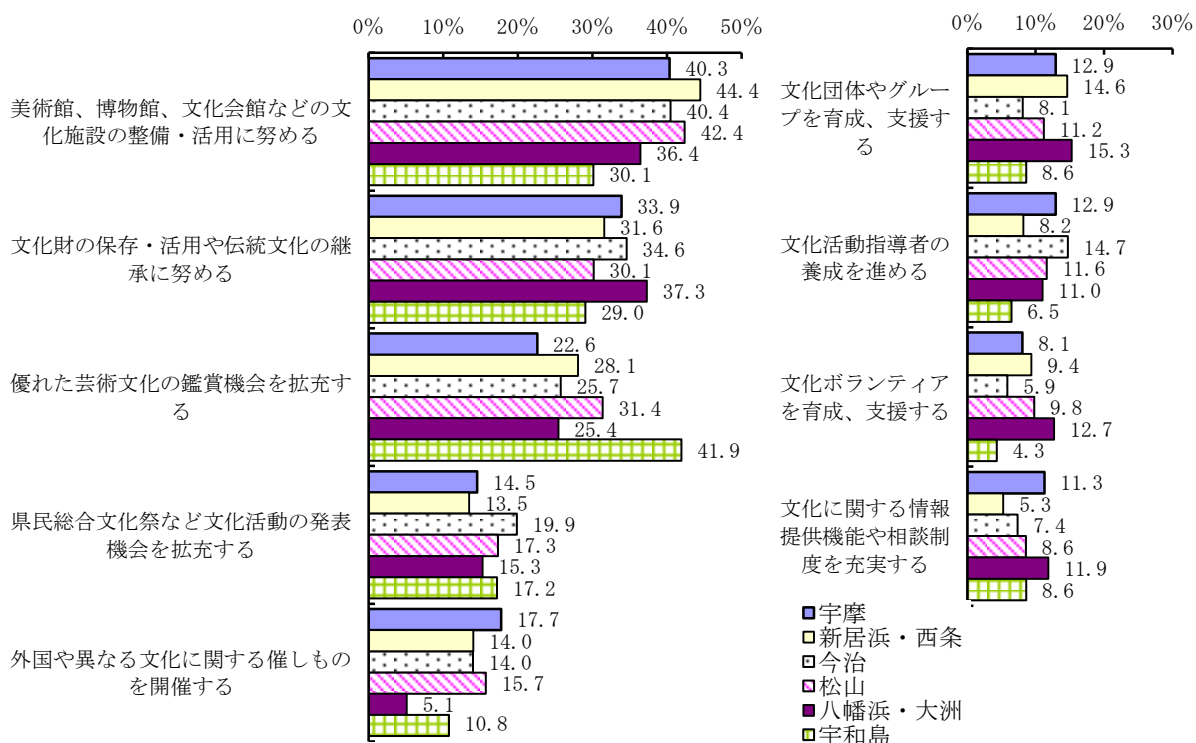
また、「美術館、博物館、文化会館などの文化施設の整備・活用に努める」と答えた人の割合は、60歳代以上で他の年齢層と比較して特に少なくなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、東予地域（宇摩圏域、新居浜・西条圏域、今治圏域）及び松山圏域では「美術館、博物館、文化会館などの文化施設の整備・活用に努める」と答えた人の割合が最も多く、八幡浜・大洲圏域では、「文化財の保存・活用や伝統文化の継承に努める」が最も多く、宇和島圏域では、「優れた芸術文化の鑑賞機会を拡充する」が最も多くなっている。

また、宇和島圏域では「優れた芸術文化の鑑賞機会を拡充する」と答えた人の割合が他の圏域と比較して特に多い。



問19 スポーツ振興対策

あなたは、スポーツ振興対策として、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

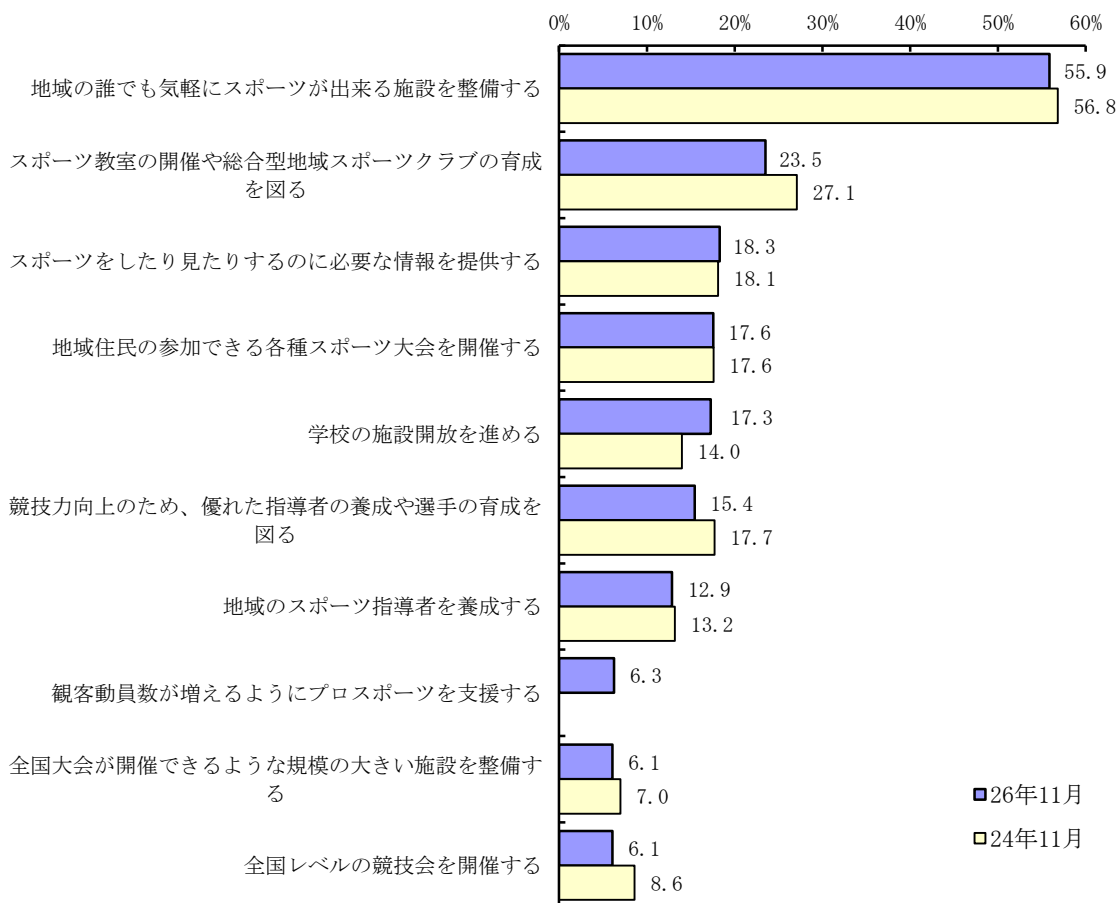
(複数回答) (%)

1	スポーツ教室の開催や総合型地域スポーツクラブ(注)の育成を図る	23.5
2	地域の誰でも気軽にスポーツができる施設を整備する	55.9
3	地域のスポーツ指導者を養成する	12.9
4	学校の施設開放を進める	17.3
5	地域住民の参加できる各種スポーツ大会を開催する	17.6
6	全国大会が開催できるような規模の大きい施設を整備する	6.1
7	競技力向上のため、優れた指導者の養成や選手の育成を図る	15.4
8	全国レベルの競技会を開催する	6.1
9	スポーツをしたり見たりするのに必要な情報を提供する	18.3
10	観客動員数が増えるようプロスポーツを支援する	6.3
11	その他	1.4
12	わからない	5.9

(注) 身近な地域でスポーツに親しむことができるよう、子どもから高齢者まで(多世代)、様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、初心者からトップレベルまでそれぞれの志向・レベルに合わせて参加でき(多志向)、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。
(「10 観客動員数が増えるようプロスポーツを支援する」は今回調査から)

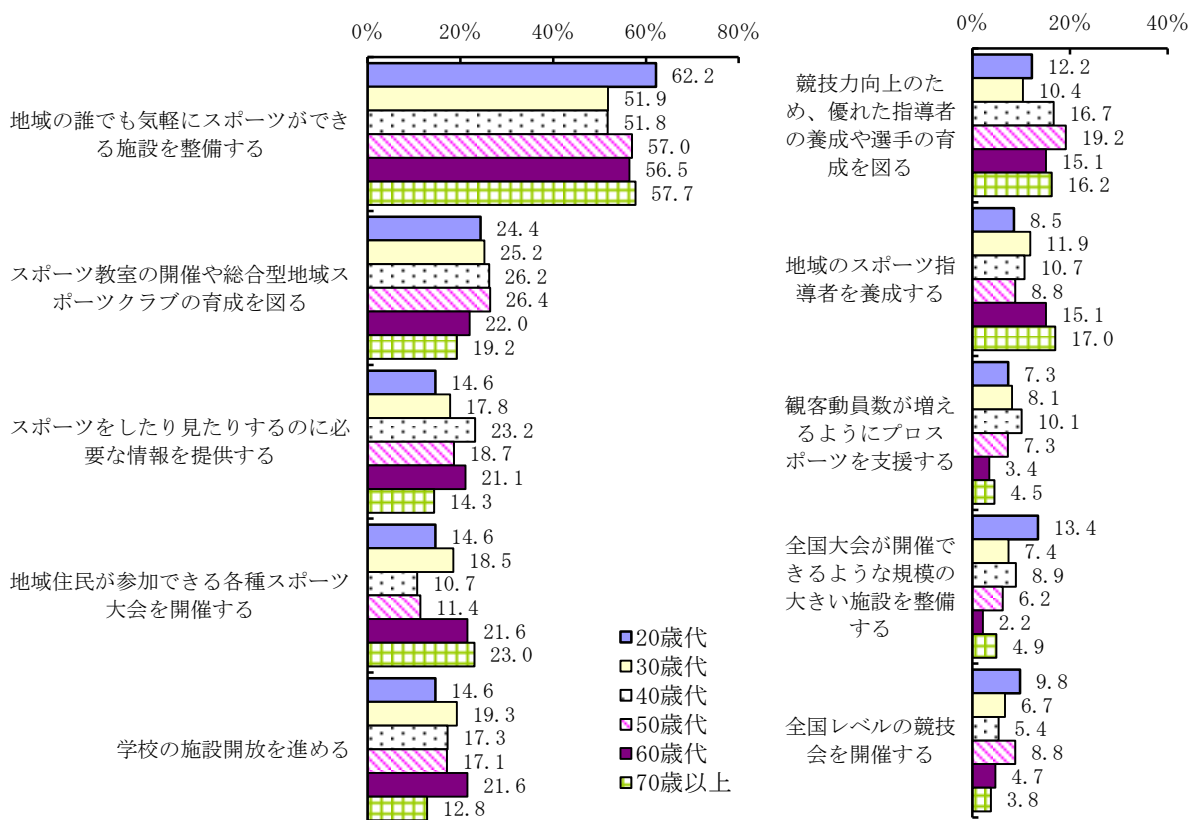
スポーツ振興対策として、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「地域の誰でも気軽にスポーツができる施設を整備する」と答えた人の割合が55.9%と最も多く、以下「スポーツ教室の開催や総合型地域スポーツクラブの育成を図る」(23.5%)、「スポーツをしたり見たりするのに必要な情報を提供する」(18.3%)、「地域住民の参加できる各種スポーツ大会を開催する」(17.6%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「スポーツ教室の開催や総合型地域スポーツクラブの育成を図る」と答えた人の割合が3.6ポイント減少し、「学校の施設開放を進める」が3.3ポイント増加している。



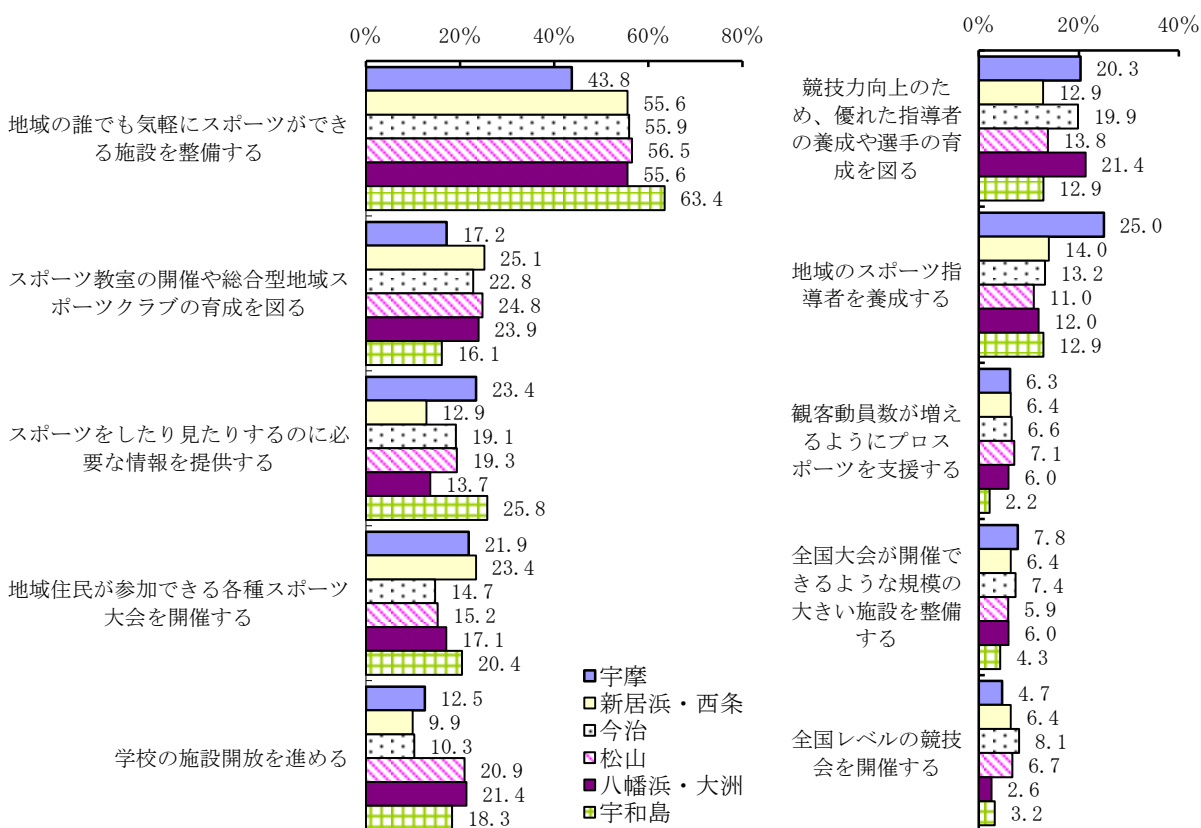
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「地域の誰でも気軽にスポーツができる施設を整備する」と答えた人の割合が最も多く、全ての年齢層で50%を超えている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「地域の誰でも気軽にスポーツができる施設を整備する」と答えた人の割合が最も多く、宇和島圏域では63.4%で他の圏域と比較して多くなっている。



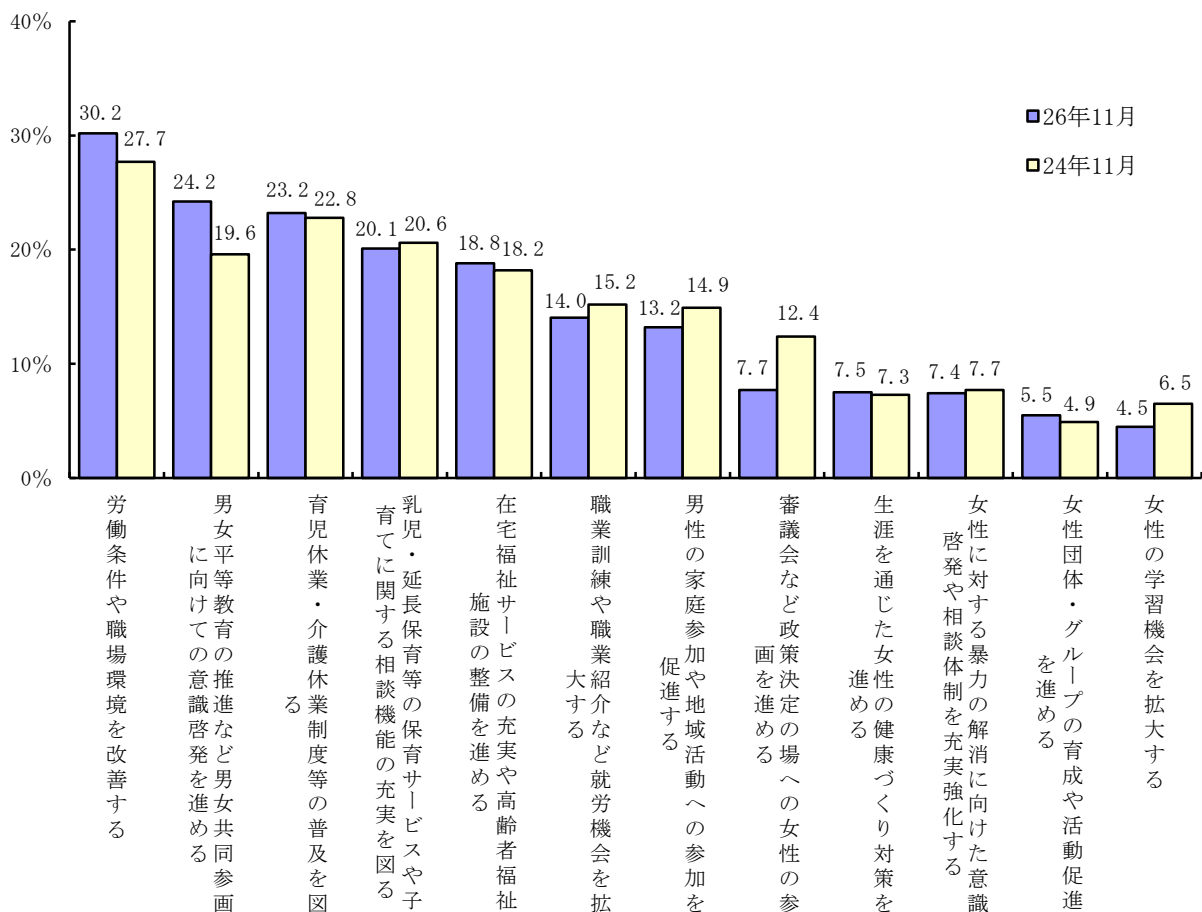
問20 男女共同参画社会づくり対策

あなたは、男女共同参画社会づくりに向けて、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 男女平等教育の推進など男女共同参画に向けての意識啓発を進める	24.2	24.2
2 審議会など政策決定の場への女性の参画を進める	7.7	7.7
3 女性の学習機会を拡大する	4.5	4.5
4 女性団体・グループの育成や活動促進を進める	5.5	5.5
5 在宅福祉サービスの充実や高齢者福祉施設の整備を進める	18.8	18.8
6 乳児・延長保育等の保育サービスや子育てに関する相談機能の充実を図る	20.1	20.1
7 生涯を通じた女性の健康づくり対策を進める	7.5	7.5
8 職業訓練や職業紹介など就労機会を拡大する	14.0	14.0
9 労働条件や職場環境を改善する	30.2	30.2
10 育児休業・介護休業制度等の普及を図る	23.2	23.2
11 男性の家庭参加や地域活動への参加を促進する	13.2	13.2
12 女性に対する暴力の解消に向けた意識啓発や相談体制を充実強化する	7.4	7.4
13 その他	1.3	1.3
14 わからない	8.2	8.2

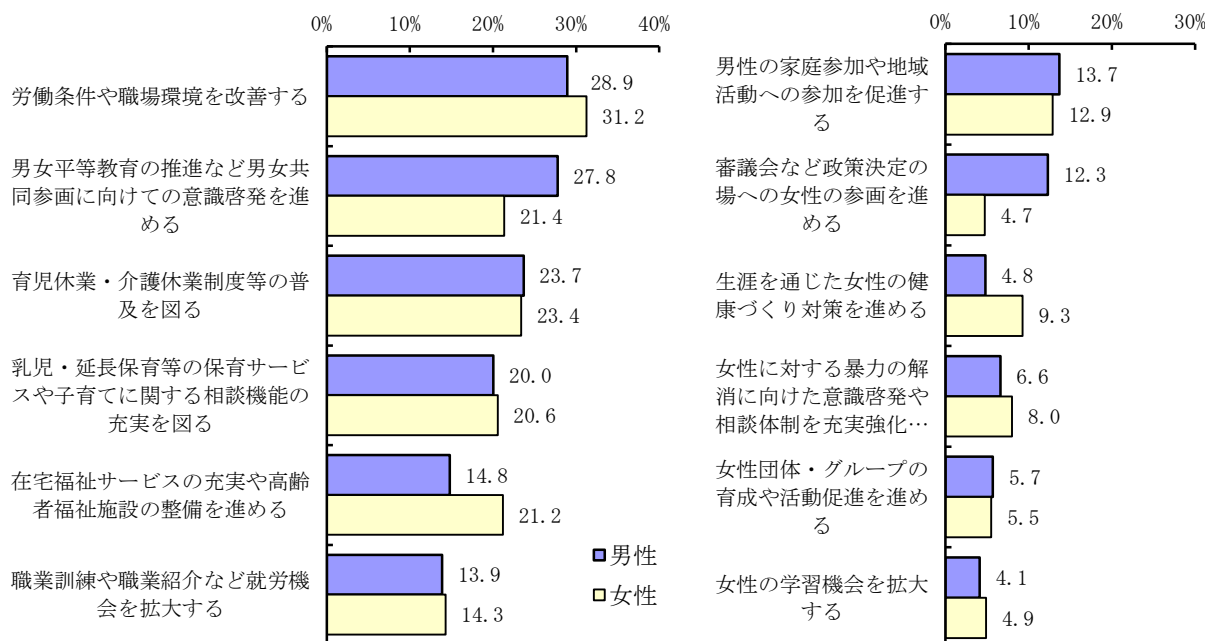
男女共同参画社会づくりに向けて、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「労働条件や職場環境を改善する」と答えた人の割合が30.2%と最も多く、以下「男女平等教育の推進など男女共同参画に向けての意識啓発を進める」(24.2%)、「育児休業・介護休業制度等の普及を図る」(23.2%)、「乳児・延長保育等の保育サービスや子育てに関する相談機能の充実を図る」(20.1%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「男女平等教育の推進など男女共同参画に向けての意識啓発を進める」と答えた人の割合が4.6ポイント増加し、「審議会など政策決定の場への女性の参画を進める」が4.7ポイント減少している。



【性別】

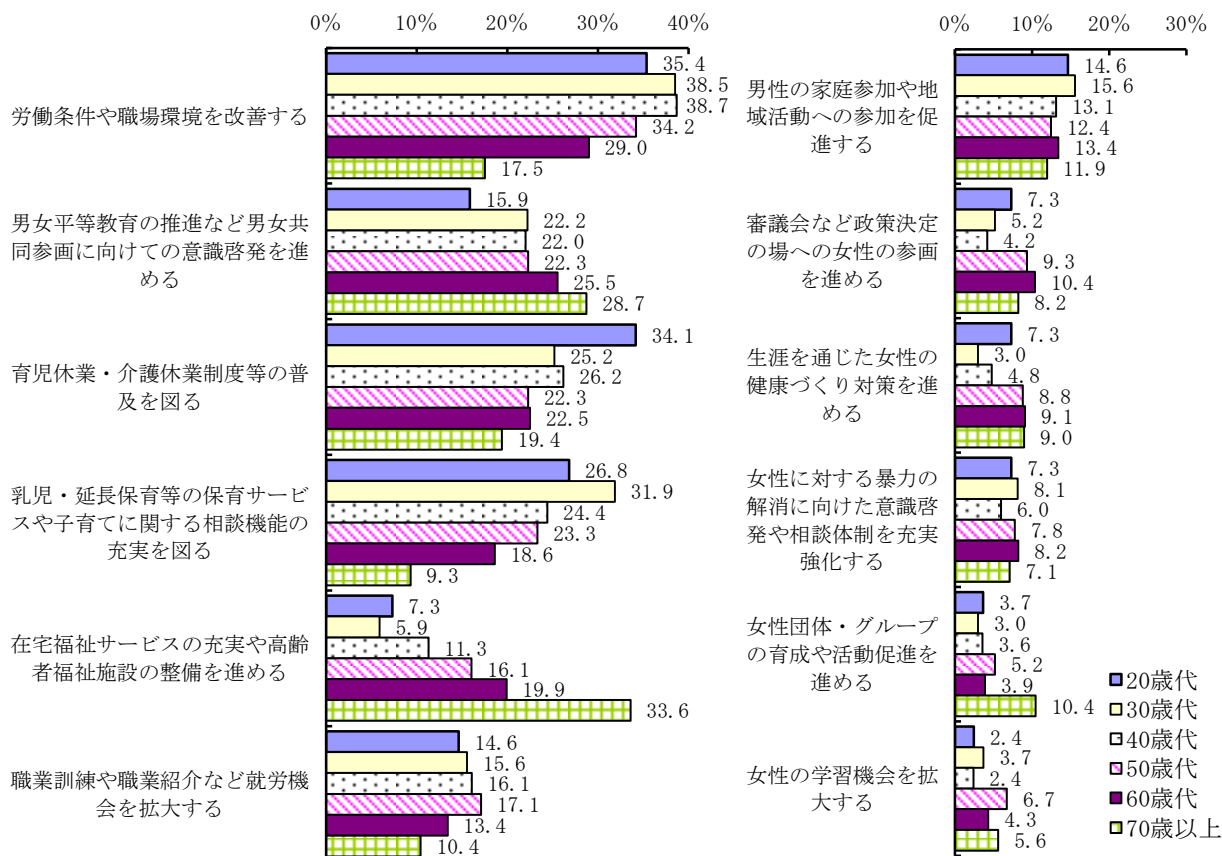
性別にみると、男女共に「労働条件や職場環境を改善する」と答えた人の割合が最も多くなっている。男性で2番目に多いのは「男女平等教育の推進など男女共同参画に向けての意識啓発を進める」(27.8%)で女性より6.4ポイント多く、女性で2番目に多いのは「育児休業・介護休業制度等の普及を図る」(23.4%)で男性とほぼ同率となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、70歳以上を除く全ての年齢層で「労働条件や職場環境を改善する」と答えた人の割合が最も多く、70歳以上では「在宅福祉サービスの充実や高齢者福祉施設の整備を進める」が最も多く、他の年齢層と比較しても特に多い。

また、「育児休業・介護休業制度等の普及を図る」と答えた人の割合は20歳代で特に多く、「乳児・延長保育等の保育サービスや子育てに関する相談機能の充実を図る」は30歳代で比較的多くなっている。



問2 1 農業対策

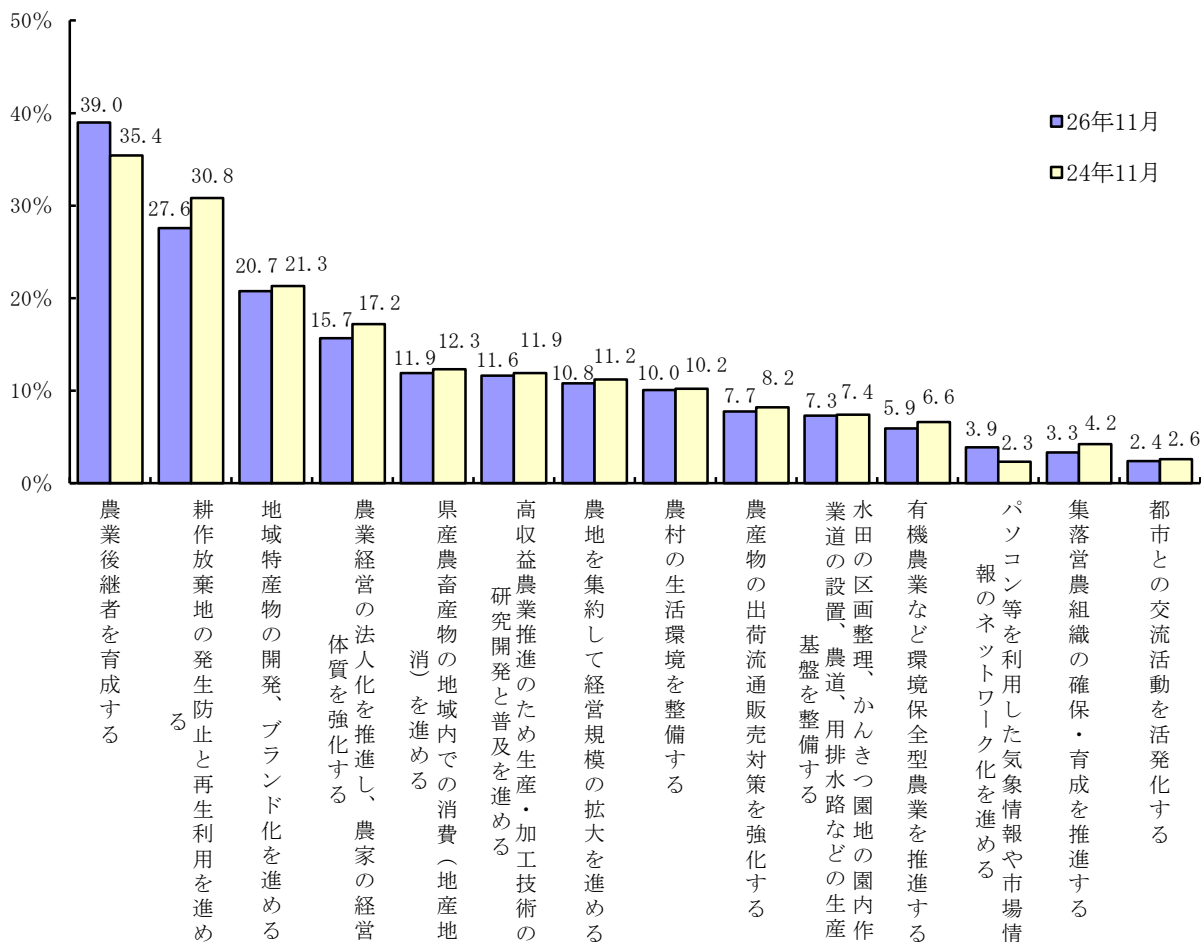
あなたは、県内の農業をもっと盛んにするためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

(複数回答) (%)

1 農地を集約して経営規模の拡大を進める	10.8
2 農業経営の法人化を推進し、農家の経営体質を強化する	15.7
3 耕作放棄地の発生防止と再生利用を進める	27.6
4 水田の区画整理、かんきつ園地の園内作業道の設置、農道、用排水路などの生産基盤を整備する	7.3
5 高収益農業推進のため生産・加工技術の研究開発と普及を進める	11.6
6 地域特産物の開発、ブランド化を進める	20.7
7 農産物の出荷流通販売対策を強化する	7.7
8 農業後継者を育成する	39.0
9 農村の生活環境を整備する	10.0
10 都市との交流活動を活性化させる	2.4
11 パソコン等を利用した気象情報や市場情報のネットワーク化を進める	3.9
12 有機農業など環境保全型農業を推進する	5.9
13 県産農畜産物の地域内での消費（地産地消）を進める	11.9
14 集落営農組織の確保・育成を推進する	3.3
15 その他	1.5
16 わからない	8.4

県内の農業をもっと盛んにするためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「農業後継者を育成する」と答えた人の割合が39.0%と最も多く、以下「耕作放棄地の発生防止と再生利用を進める」（27.6%）、「地域特産物の開発、ブランド化を進める」（20.7%）、「農業経営の法人化を推進し、農家の経営体質を強化する」（15.7%）などの順となっている。

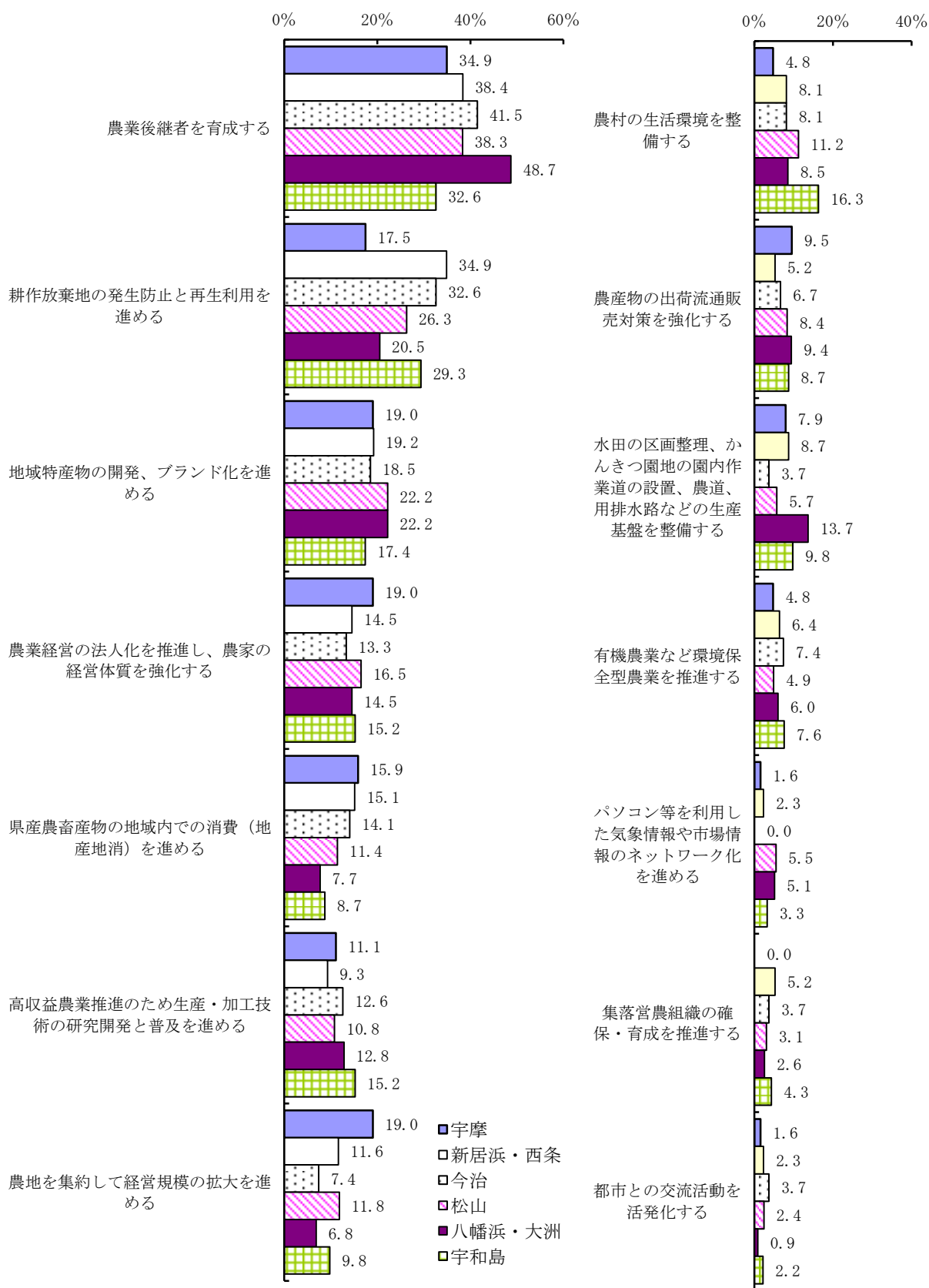
前回調査と比較すると、「農業後継者を育成する」と答えた人の割合が3.6ポイント増加し、「耕作放棄地の発生防止と再生利用を進める」が3.2ポイント減少している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「農業後継者を育成する」と答えた人の割合が最も多く、八幡浜・大洲圏域では、他の圏域と比較して特になくなっている。

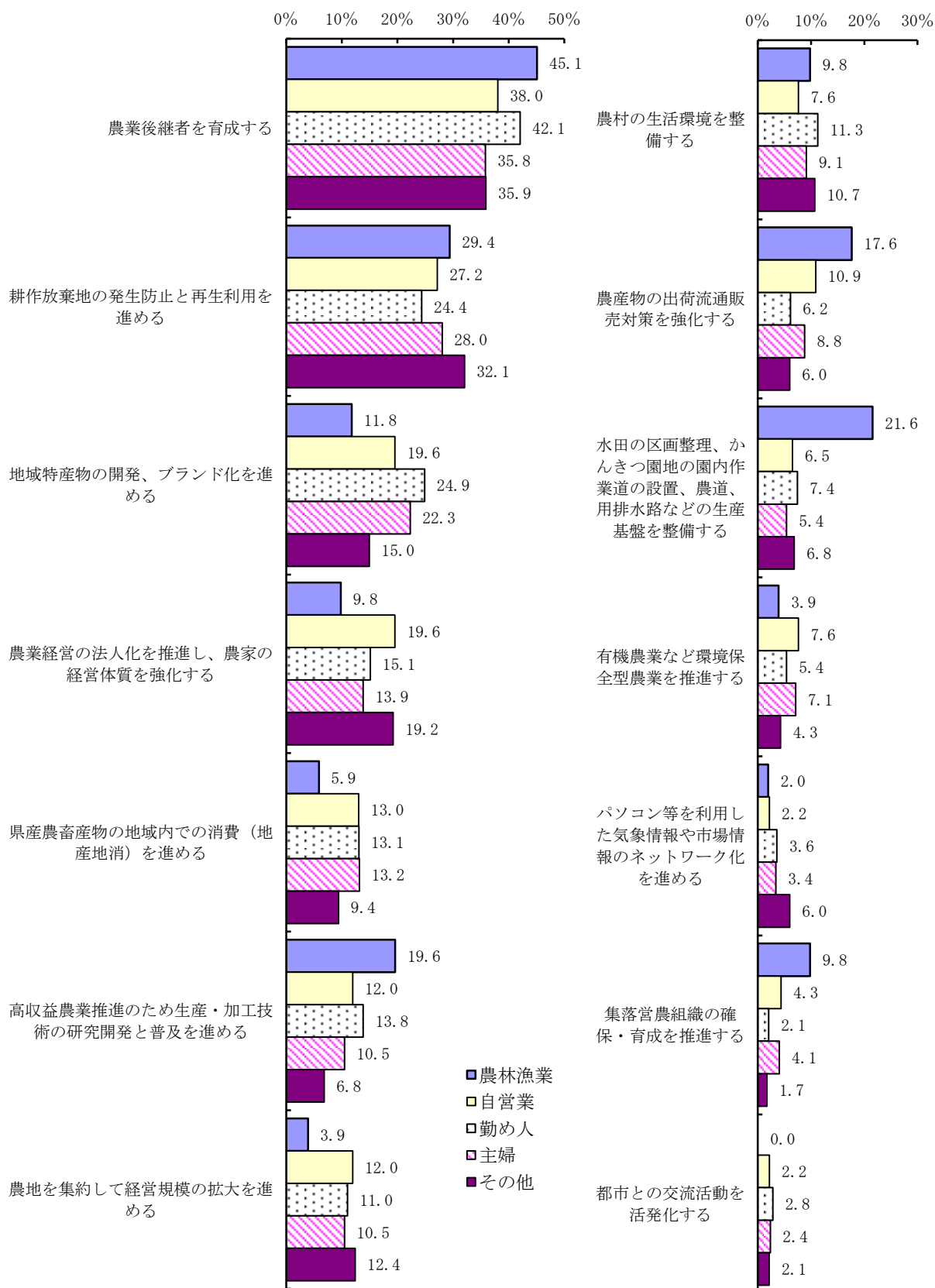
また、「農地を集約して経営規模の拡大を進める」と答えた人に割合は、宇摩圏域で他の圏域と比較して多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、全ての職業で「農業後継者を育成する」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、農林漁業は「水田の区画整理、かんきつ園地の園内作業道の設置、農道、用排水路などの生産基盤を整備する」と答えた人の割合が21.6%で他の職業と比較して特に多い。



問2 2 林業対策

あなたは、県内の林業をもっと盛んにするためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

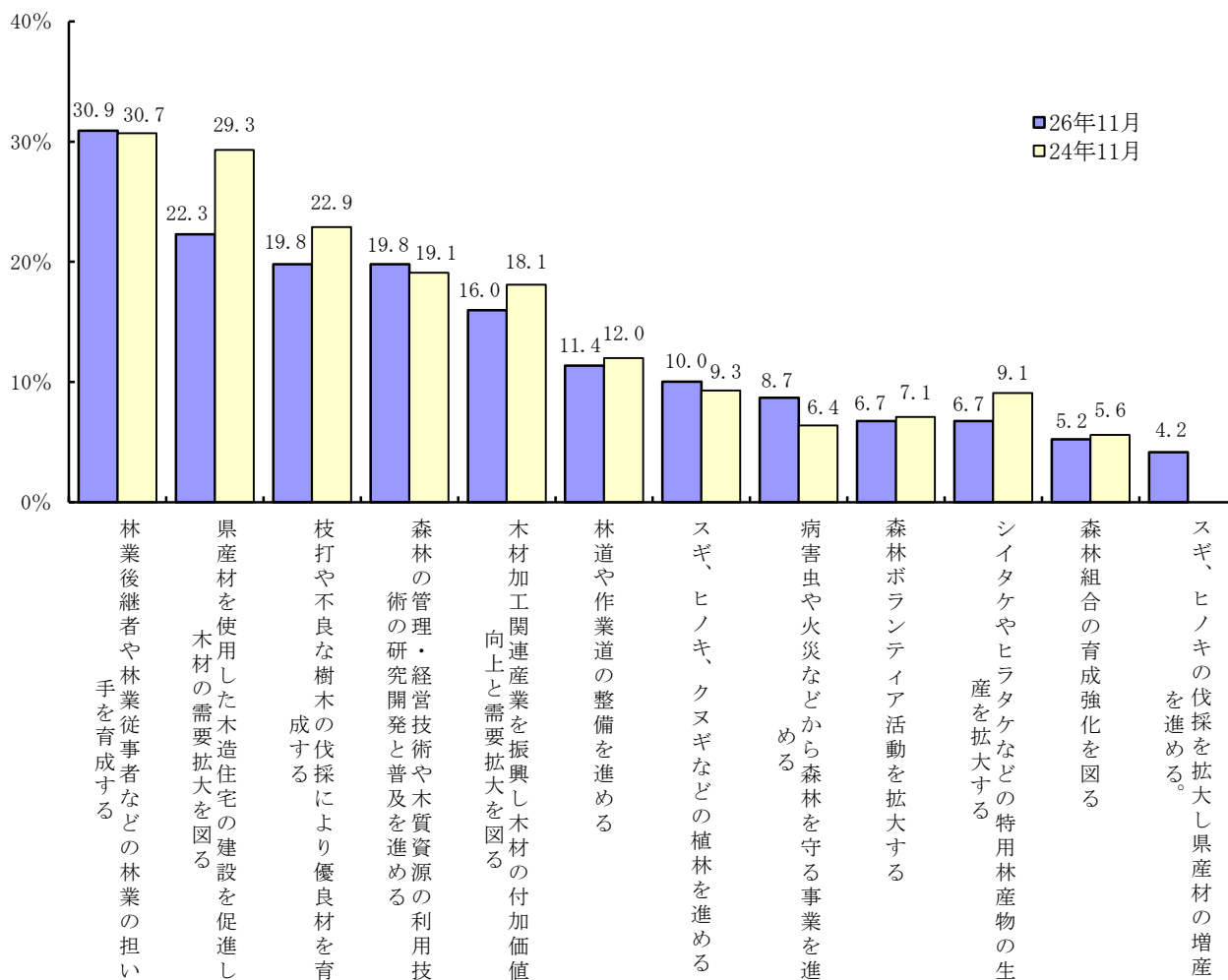
(複数回答) (%)

1	枝打や不良な樹木の伐採により優良材を育成する	19.8
2	スギ、ヒノキ、クヌギなどの植林を進める	10.0
3	病虫害や火災などから森林を守る事業を進める	8.7
4	林道や作業道の整備を進める	11.4
5	森林の管理・経営技術や木質資源の利用技術の研究開発と普及を進める	19.8
6	林業後継者や林業従事者などの林業の担い手を育成する	30.9
7	森林ボランティア活動を拡大する	6.7
8	森林組合の育成強化を図る	5.2
9	シイタケやヒラタケなどの特用林産物の生産を拡大する	6.7
10	木材加工関連産業を振興し、木材の付加価値向上と需要拡大を図る	16.0
11	県産材を使用した木造住宅の建設を促進し、木材の需要拡大を図る	22.3
12	スギ、ヒノキの伐採を拡大し県産材の増産を進める	4.2
13	その他	1.5
14	わからない	15.9

(「12 スギ、ヒノキの伐採を拡大し県産材の増産を進める」は今回調査から)

県内の林業をもっと盛んにするためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「林業後継者や林業従事者などの林業の担い手を育成する」と答えた人の割合が30.9%で最も多く、以下「県産材を使用した木造住宅の建設を促進し、木材の需要拡大を図る」(22.3%)、「枝打や不良な樹木の伐採により優良材を育成する」(19.8%)、「森林の管理・経営技術や木質資源の利用技術の研究開発と普及を進める」(19.8%)などの順となっている。

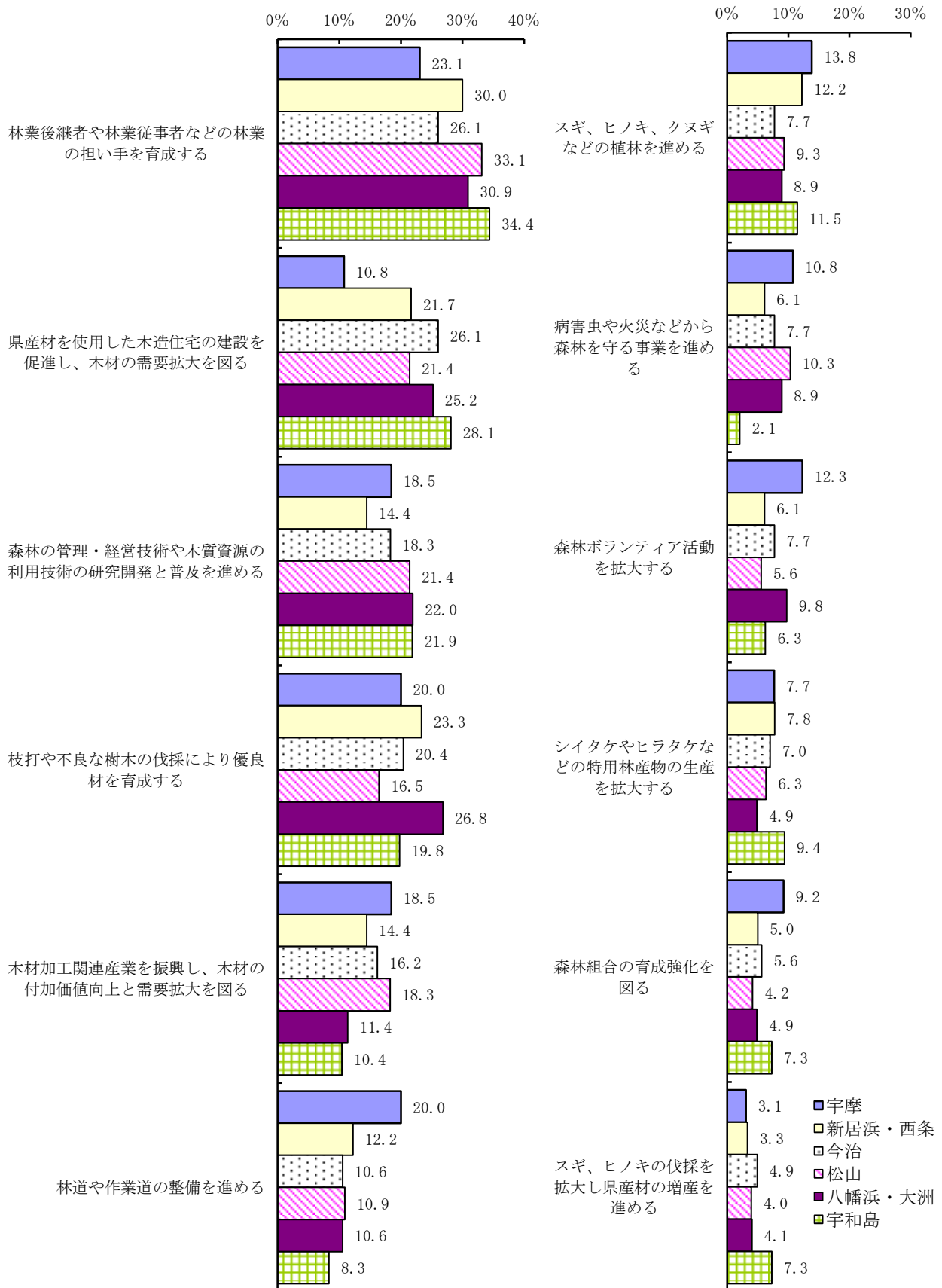
前回調査と比較すると、「県産材を使用した木造住宅の建設を促進し、木材の需要拡大を図る」が7.0ポイント減少している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「林業後継者や林業従事者などの林業の担い手を育成する」と答えた人の割合が最も多いが、今治圏域では「県産材を使用した木造住宅の建設を促進し木材の需要拡大を図る」も同率で最も多い。

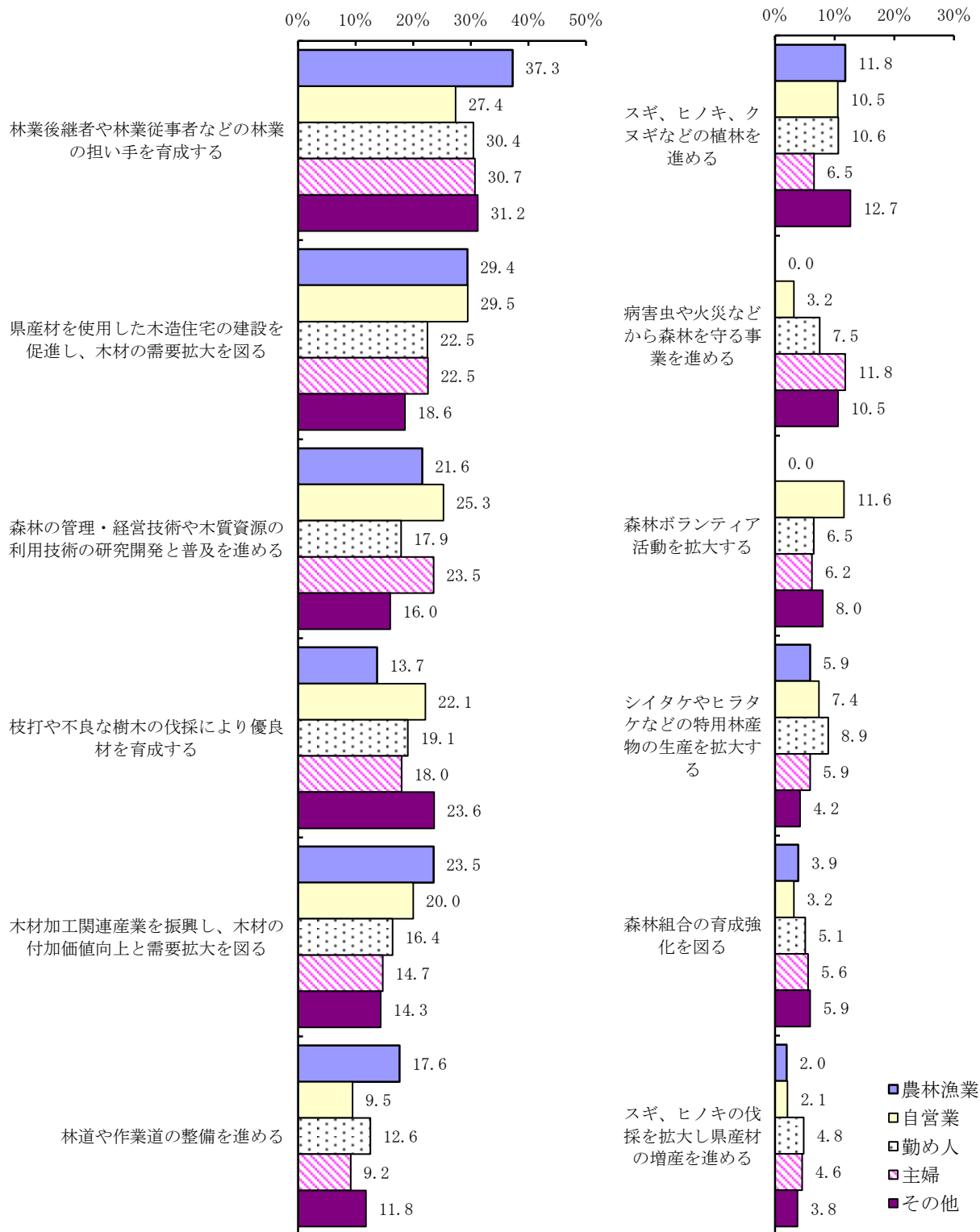
また、宇摩圏域では「県産材を使用した木造住宅の建設を促進し、木材の需要拡大を図る」が他の圏域と比較して特に少なく、逆に、「林道や作業道の整備を進める」は他の圏域と比較して特に多い。



【職業別】

職業別にみると、自営業を除く全ての職業で「林業後継者や林業従事者などの林業の担い手を育成する」と答えた人の割合が最も多く、自営業では「県産材を使用した木造住宅の建設を促進し木材の需要拡大を図る」が最も多くなっている。

また、農林漁業では「林業後継者や林業従事者などの林業の担い手を育成する」と答えた人の割合が他の職業と比較して多く、農林漁業及び自営業では「県産材を使用した木造住宅の建設を促進し、木材の需要拡大を図る」が比較的が多くなっている。



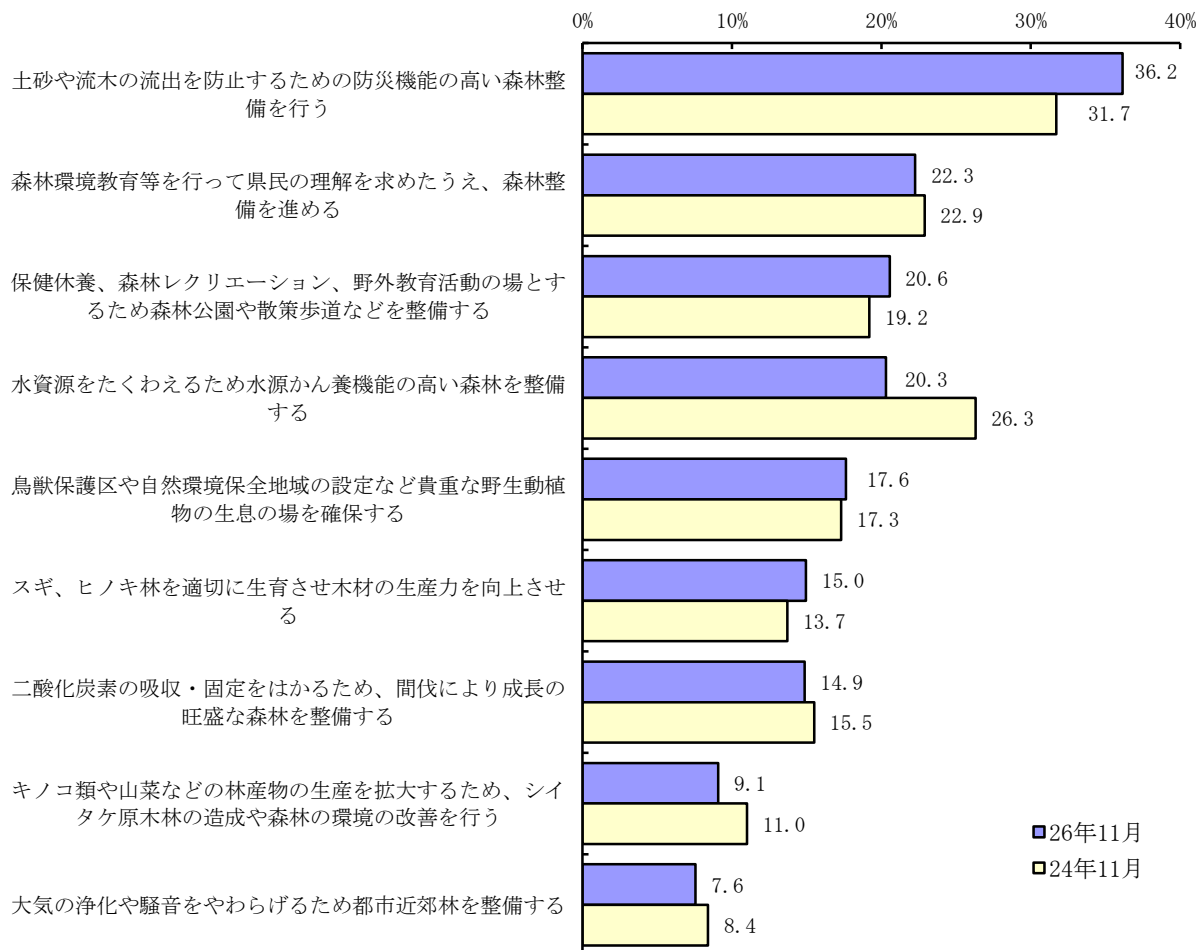
問23 森林対策

あなたは、県内の森林の整備を進めるにあたって、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 森林環境教育等を行って県民の理解を求めたうえ、森林整備を進める	22.3	22.3
2 スギ、ヒノキ林を適切に生育させ木材の生産力を向上させる	15.0	15.0
3 水資源をたくわえるため水源かん養機能の高い森林を整備する	20.3	20.3
4 土砂や流木の流出を防止するための防災機能の高い森林整備を行う	36.2	36.2
5 二酸化炭素の吸収・固定をはかるため、間伐により成長の旺盛な森林を整備する	14.9	14.9
6 大気の浄化や騒音をやわらげるため都市近郊林を整備する	7.6	7.6
7 保健休養、森林レクリエーション、野外教育活動の場とするため森林公園や散策歩道などを整備する	20.6	20.6
8 鳥獣保護区や自然環境保全地域の設定など貴重な野生動植物の生息の場を確保する	17.6	17.6
9 キノコ類や山菜などの林産物の生産を拡大するため、シイタケ原木林の造成や森林の環境の改善を行う	9.1	9.1
10 その他	1.2	1.2
11 わからない	14.4	14.4

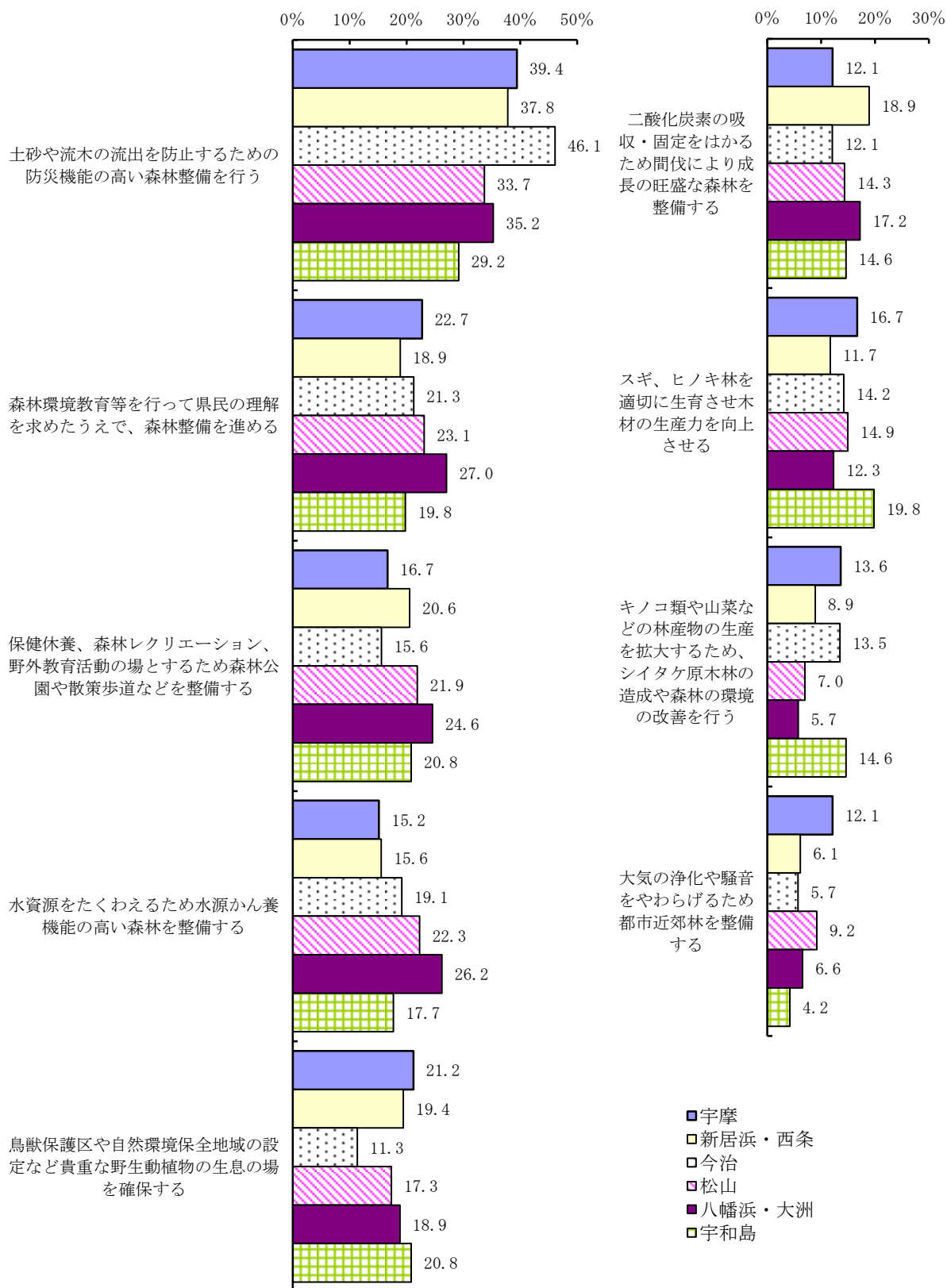
県内の森林整備を進めるにあたって、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「土砂や流木の流出を防止するための防災機能の高い森林整備を行う」が36.2%で最も多く、以下「森林環境教育等を行って県民の理解を求めたうえ、森林整備を進める」(22.3%)、「保健休養、森林レクリエーション、野外教育活動の場とするため森林公園や散策歩道などを整備する」(20.6%)、「水資源をたくわえるため水源かん養機能の高い森林を整備する」(20.3%)などの順となっている。

前回調査と比較すると「土砂や流木の流出を防止するための防災機能の高い森林整備を行う」と答えた人の割合が4.5ポイント増加し、「水資源をたくわえるため水源かん養機能の高い森林を整備する」が6.0ポイント減少している。



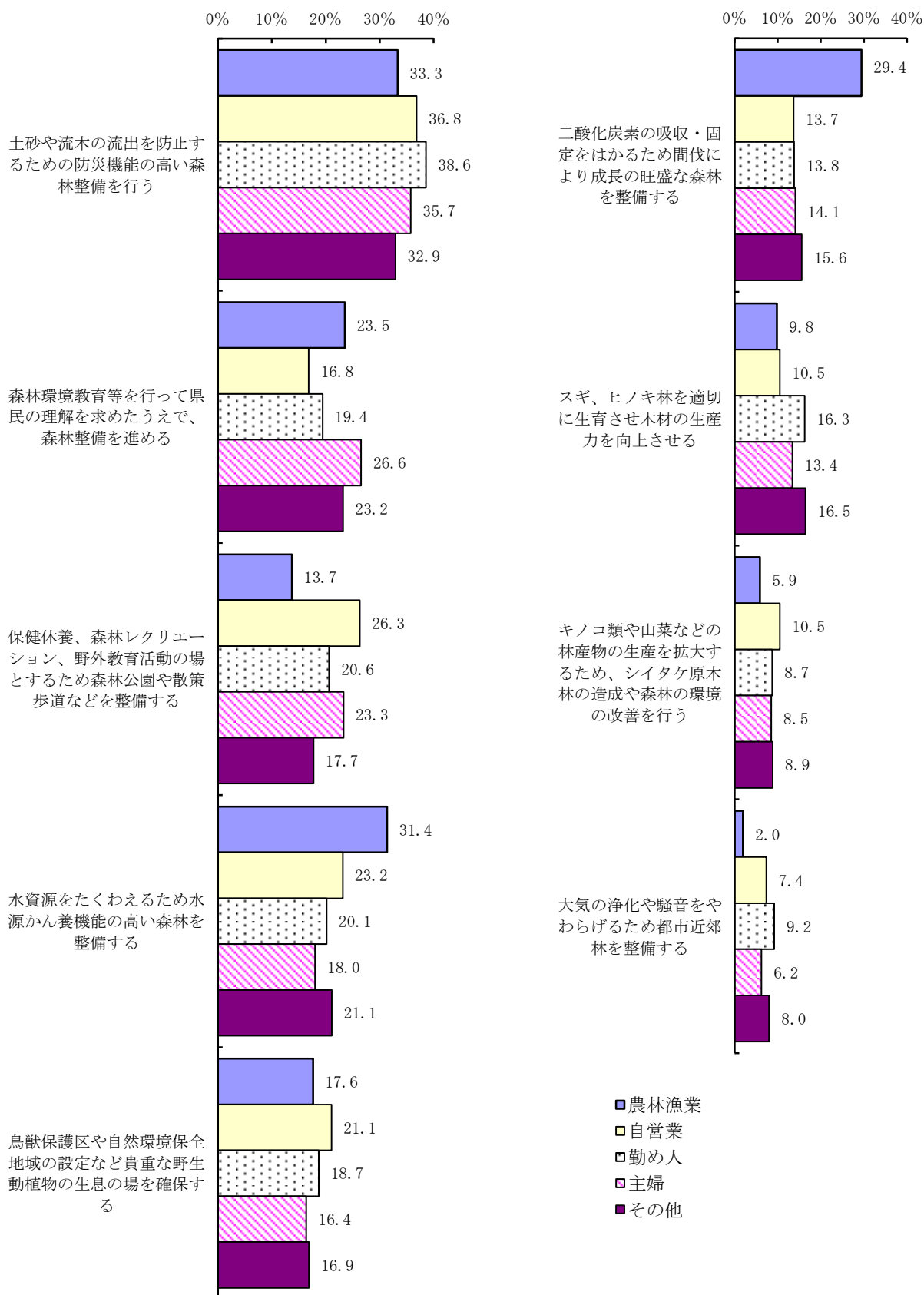
【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「土砂や流木の流出を防止するための防災機能の高い森林整備を行う」と答えた人の割合が最も多く、今治圏域で特に多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、全ての職業で「土砂や流木の流出を防止するための防災機能の高い森林整備を行う」と答えた人の割合が最も多い。農林漁業では「水資源をたくわえるため水源かん養機能の高い森林を整備する」及び「二酸化炭素の吸収・固定をはかるため、間伐により成長の旺盛な森林を整備する」と答えた人の割合が他の職業と比較して特になくなっている。



問24 水産業対策

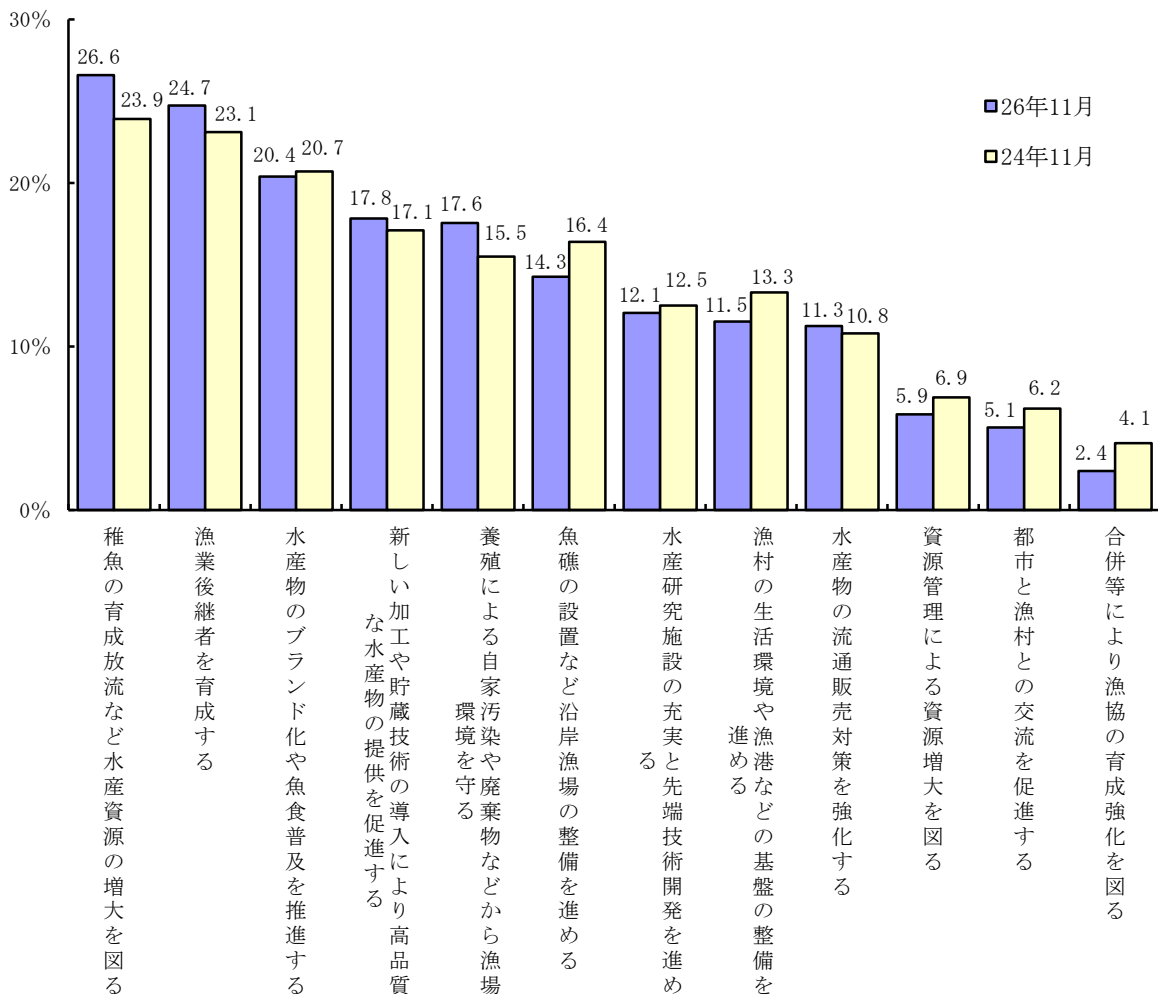
あなたは、県内の水産業をもっと盛んにするためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

(複数回答) (%)

1	魚礁の設置など沿岸漁場の整備を進める	14.3
2	稚魚の育成放流など水産資源の増大を図る	26.6
3	養殖による自家汚染や廃棄物などから漁場環境を守る	17.6
4	漁村の生活環境や漁港などの基盤の整備を進める	11.5
5	水産研究施設の充実と先端技術開発を進める	12.1
6	漁業後継者を育成する	24.7
7	合併等により漁協の育成強化を図る	2.4
8	都市と漁村との交流を促進する	5.1
9	資源管理による資源増大を図る	5.9
10	新しい加工や貯蔵技術の導入により高品質な水産物の提供を促進する	17.8
11	水産物の流通販売対策を強化する	11.3
12	水産物のブランド化や魚食普及を推進する	20.4
13	その他	1.3
14	わからない	11.8

県内の水産業をもっと盛んにするためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「稚魚の育成放流など水産資源の増大を図る」と答えた人の割合が26.6%と最も多く、以下「漁業後継者を育成する」(24.7%)、「水産物のブランド化や魚食普及を推進する」(20.4%)、「新しい加工や貯蔵技術の導入により高品質な水産物の提供を促進する」(17.8%)などの順となっている。

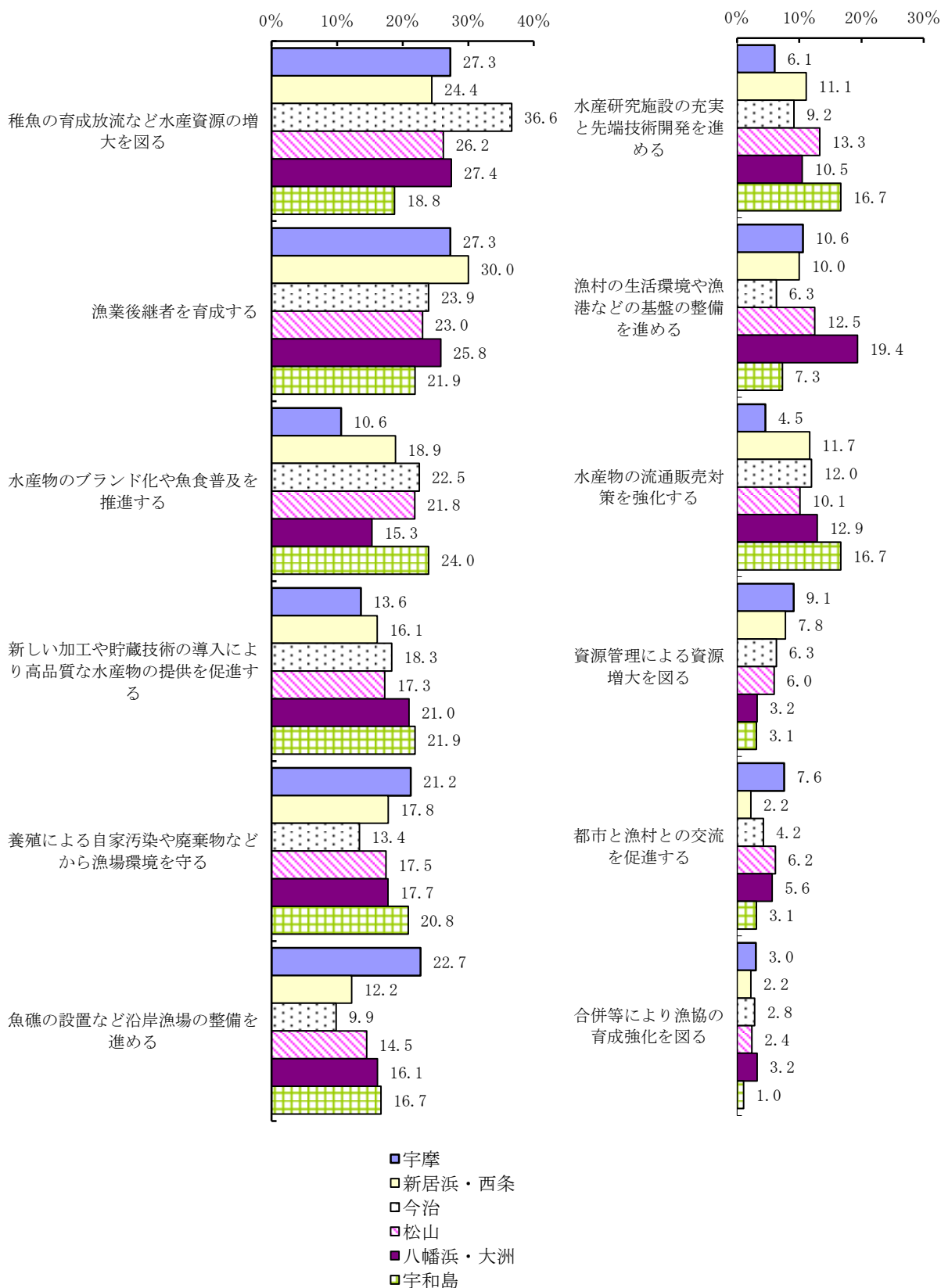
前回調査と比較すると、「稚魚の育成放流など水産資源の増大を図る」と答えた人の割合が2.7ポイント増加している。



【生活圏域別】

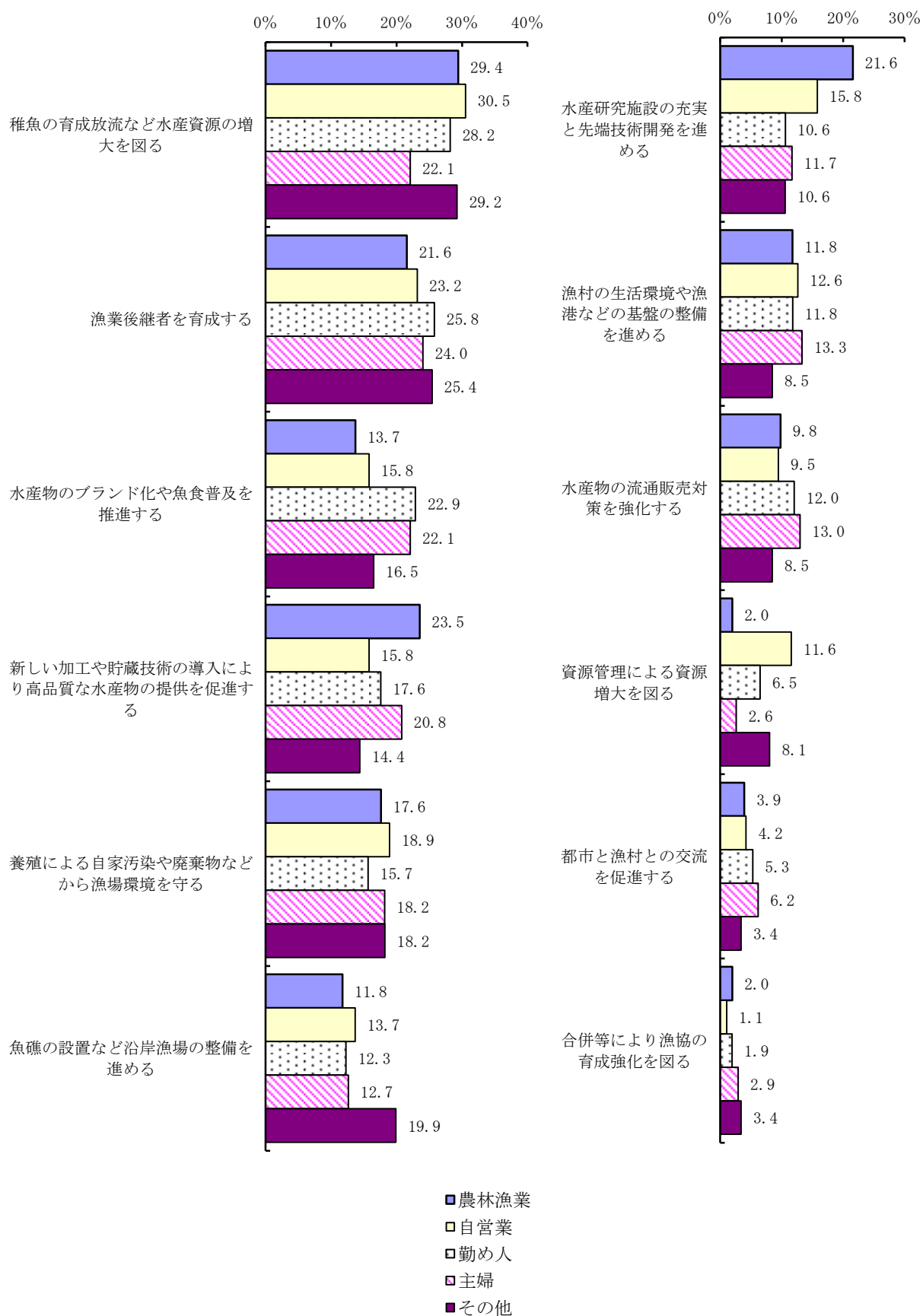
生活圏域別にみると、新居浜・西条圏域及び宇和島圏域を除いた全ての圏域で「稚魚の育成放流など水産資源の増大を図る」と答えた人の割合が最も多いが、宇摩圏域では「漁業後継者を育成する」も同率で最も多い。新居浜・西条圏域では「漁業後継者を育成する」が最も多く、宇和島圏域では「水産物のブランド化や魚食普及を推進する」が最も多くなっている。

また、今治圏域では「稚魚の育成放流など水産資源の増大を図る」が他の圏域と比較して多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、主婦を除く全ての職業で「稚魚の育成放流など水産資源の増大を図る」と答えた人の割合が最も多いが、主婦は22.1%で他の職業と比較して少ない。主婦は「漁業後継者を育成する」と答えた人の割合が最も多い。



問25 商業対策

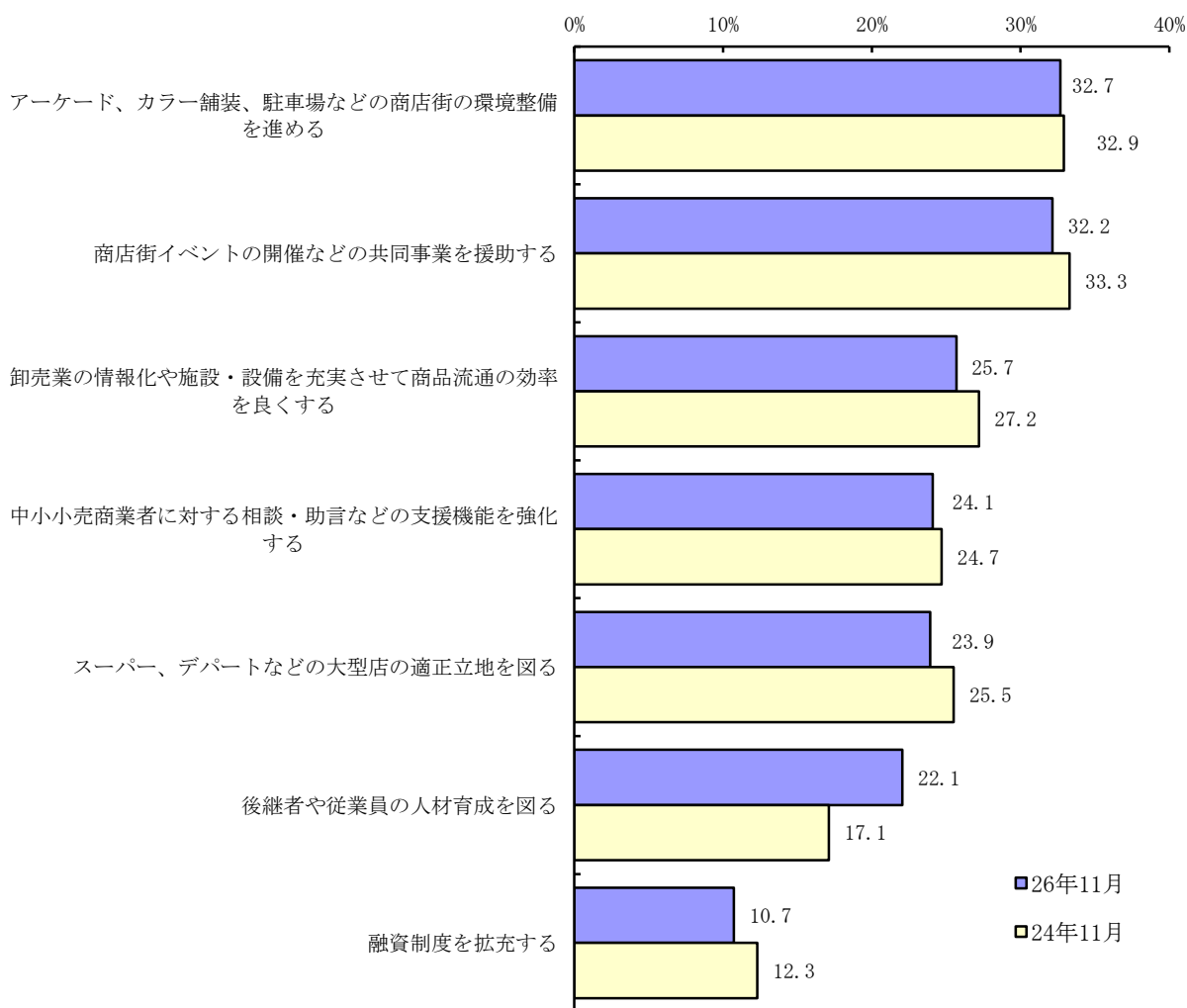
あなたは、県内の商業をもっと盛んにするためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

(複数回答) (%)

1	アーケード、カラー舗装、駐車場などの商店街の環境整備を進める	32.7
2	卸売業の情報化や施設・設備を充実させて商品流通の効率を良くする	25.7
3	スーパー、デパートなどの大型店の適正立地を図る	23.9
4	中小小売商業者に対する相談・助言などの支援機能を強化する	24.1
5	商店街イベントの開催などの共同事業を援助する	32.2
6	融資制度を拡充する	10.7
7	後継者や従業員の人材育成を図る	22.1
8	その他	1.8
9	わからない	9.0

県内の商業をもっと盛んにするためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「アーケード、カラー舗装、駐車場などの商店街の環境整備を進める」と答えた人の割合が32.7%と最も多く、以下「商店街イベントの開催などの共同事業を援助する」(32.2%)、「卸売業の情報化や施設・設備を充実させて商品流通の効率を良くする」(25.7%)、「中小小売商業者に対する相談・助言などの支援機能を強化する」(24.1%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「後継者や従業員の人材育成を図る」と答えた人の割合が5.0ポイント増加している。

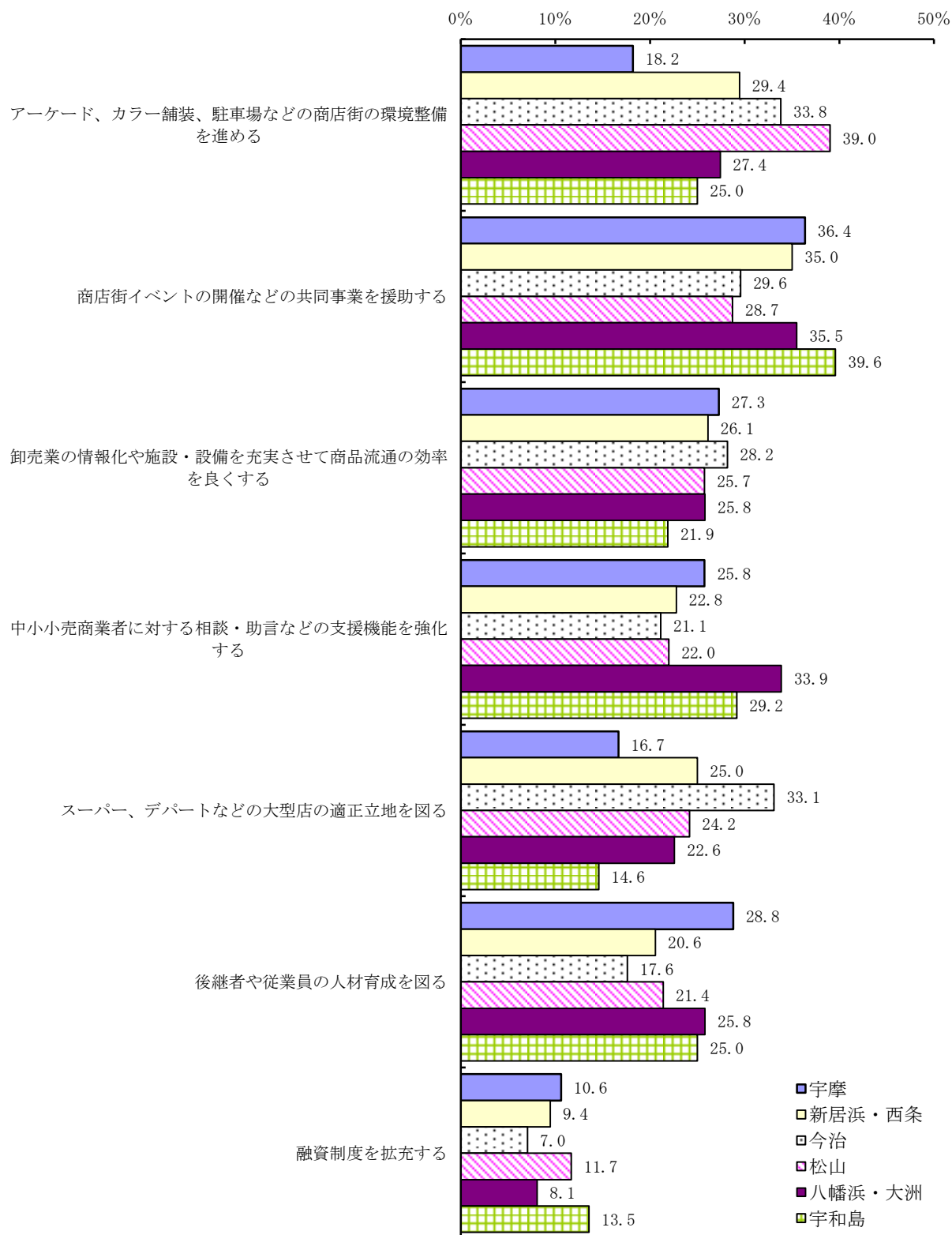


【生活圏域別】

生活圏域別にみると、今治圏域及び松山圏域を除く全ての圏域で「商店街イベントの開催などの共同事業を援助する」と答えた人の割合が最も多く、今治圏域及び松山圏域では「アーケード、カラー舗装、駐車場などの商店街の環境整備を進める」が最も多くなっている。

また「アーケード、カラー舗装、駐車場などの商店街の環境整備を進める」は、松山圏域では他の圏域と比較して多いが、宇摩圏域では18.2%で特に少なくなっている。

また、今治圏域では「スーパー、デパートなどの大型店の適正立地を図る」が、他の圏域と比較して多い。



【職業別】

職業別にみると、主婦及びその他を除く全ての職業で「商店街イベントの開催などの共同事業を援助する」と答えた人の割合が最も多く、主婦及びその他は「アーケード、カラー舗装、駐車場などの商店街の環境整備を進める」が最も多くなっている。

